

令和5年度

新宿区多文化共生実態調査

概 要 版

令和6年1月

新宿区

はじめに

令和6年1月現在、新宿区には約130の国や地域からなる4万人を超える外国人が暮らしており、その割合は区民全体の約13%となっています。

区は、国籍や民族等の異なる人々が互いの文化的違いを認め合い、一人ひとりが地域社会の一員として活躍できる「多文化共生のまち」の実現をめざしており、多言語による情報提供や相談、日本語学習への支援、地域における交流事業などに取り組んでいます。

本調査では地域で共に暮らす日本人と外国人について、平成27年度に実施した前回調査からの経年変化とともに、暮らしの中での課題や交流の現状などをより深く把握するために新たな質問を設けて調査することといたしました。これらの調査結果を分析することで、多文化共生に関する課題やニーズを的確に捉え、今後の取組に役立ててまいります。

最後になりますが、調査にご協力いただいた皆さまに心よりお礼申し上げます。

令和6年1月

新宿区長 吉住 健一

目 次

I	調査実施の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査実施	1
3	アンケート調査実施の概要	1
II	調査回答者の属性	8
1	外国人住民	8
2	日本人住民	10
III	調査結果のポイント	11
1	外国人住民	11
(1)	日常生活での困りごと	11
(2)	ことば（日本語学習）	13
(3)	日本人とのつき合い	17
(4)	必要な情報・サービス	19
(5)	しんじゅく多文化共生プラザについて	21
2	日本人住民	22
(1)	近所に外国人が生活すること	22
(2)	しんじゅく多文化共生プラザについて	24
3	外国人住民調査と日本人住民調査の比較	25
(1)	日常生活でのトラブル	25
(2)	偏見・差別をなくすために必要だと思うこと	26
(3)	多文化共生のまちづくり	27
IV	調査結果	29
1	外国人住民	29
(1)	日本での暮らし	29
(2)	ことば（日本語学習）	31
(3)	災害時・緊急時の対応	32
(4)	必要な情報・サービスについて	33
(5)	多文化共生のまちづくり	34
2	日本人住民	36
(1)	暮らし	36
(2)	災害時・緊急時の協力	39
(3)	多文化共生のまちづくり	39

I 調査実施の概要

1 調査の目的

新宿区は国籍や民族等の異なる人々が互いの文化的違いを認め、理解し、地域で共に生きていく「多文化共生のまちづくり」を推進するためさまざまな施策を実施している。

本調査は、地域で共に生活する日本人と外国人の暮らしの中での課題や交流の現状などを把握し、今後の多文化共生施策の検討・推進のための基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査実施

【調査主体】 新宿区

【調査支援】 新宿区多文化共生まちづくり会議

【調査委託】 株式会社 文化科学研究所

3 アンケート調査実施の概要

アンケート調査は、『外国人住民調査』及び『日本人住民調査』の2種類を実施した。

(1) 調査概要

項目	内 容	
調査地域	区内全域	
調査期間	令和5年8月1日(火)～8月28日(月)	
調査対象	外国人住民調査	区内に在住する18歳以上の男女個人 5,000人
	日本人住民調査	区内に在住する18歳以上の男女個人 2,000人
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	
調査方法	郵送配布、郵送またはWEBによる回収	
	外国人住民調査	抽出した対象者の国籍に合わせて、日本語と言語別調査票を組み合わせ(内訳は次ページ参照)、封筒にて郵送し、同封した返信用封筒及びWEBにて回収。 ◇調査票の発送約2週間後に、「お礼状兼ご協力のお祝いハガキ」を全対象者に配付し、調査協力へのお礼と回収率の向上を図った。
	日本人住民調査	調査票を封筒にて郵送し、同封した返信用封筒及びWEBにて回収。 ◇調査票の発送約2週間後に、「お礼状兼ご協力のお祝いハガキ」を全対象者に配付し、調査協力へのお礼と回収率の向上を図った。

(2) 言語別調査票発送の内訳（外国人住民調査）

言語		発送数（部）
日本語ルビ付		5,000
	中国語	2,310
	韓国語	983
	英語	725
	ネパール語	319
	ベトナム語	283
	ミャンマー語	231
	フランス語	77
	タイ語	72
	小計	5,000

(3) 調査項目

外国人住民調査		
調査回答者の属性		
(1) 性別	(5) 来日目的	
(2) 年齢	(6) 在留資格	
(3) 国籍	(7) 仕事	
(4) 日本での滞在期間	(8) 同居人	
1 日本での暮らし		
(1) 定住意向	(6) 日常生活で困った時の相談相手	
(2) 日本の生活で困っていることや不満なこと	(7) 日本人とのトラブル経験	
(3) 日本人と話すときに希望する言葉	(8) 日本人から外国人に対する偏見や差別	
(4) 日本人とのつき合い	(9) 偏見や差別をなくすために必要だと思うこと	
(5) 地域の日本人に望むこと		
2 ことば（日本語学習）		
(1) 日本語に関して困ること	(2) 日本語の学習意向	
3 災害時・緊急時の対応		
(1) 災害時の準備	(3) 新宿区に望む災害対策	
(2) 防災訓練の参加状況		
4 必要な情報・サービスについて		
(1) 新宿区が多言語で提供している外国人向けの情報で知っているもの	(3) 必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと	
(2) 新宿区で生活していく上で知りたい情報		
5 多文化共生のまちづくり		
(1) しんじゅく多文化共生プラザについて	(4) 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が進めるべきと思うこと	
(2) しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの	(5) 参加したいと思える交流会・イベント	
(3) 多文化共生のまちづくり推進のために活動してみたいこと		
6 居住地域		
7 自由回答		

日本人住民調査	
調査回答者の属性	
(1) 性別	(4) 身近な人（親族等）に外国籍の方や外国にルーツを持つ方の有無
(2) 年齢	(5) 同居人
(3) 新宿での居住年数	(6) 海外での生活経験
1 暮らし	
(1) 定住意向	(7) 近所の外国人とのつき合いの程度
(2) 外国人増加の実感	(8) 外国人と生活していく上で大切なこと
(3) 近所に外国人が生活することについての考え	(9) 外国人とのトラブル経験
(4) 近所に外国人が住むことについて感じる事	(10) 日本人から外国人に対する偏見や差別
(5) 外国人が生活上困っていたり不満があると思われること	(11) 偏見や差別をなくすために必要だと思うこと
(6) 普段の生活で外国人と話す機会	
2 災害時・緊急時の協力	
(1) 新宿区に望む災害対策	
3 多文化共生のまちづくり	
(1) 多文化共生社会という言葉の認知度	(4) 多文化共生のまちづくり推進のために自分ができると思うこと
(2) しんじゅく多文化共生プラザについて	(5) 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が力を入れるべきと思うこと
(3) しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの	(6) 参加したいと思える交流会・イベント
4 居住地域	
5 自由回答	

(4) 居住地域区分と地域別住民基本台帳人口（令和5年9月1日現在）

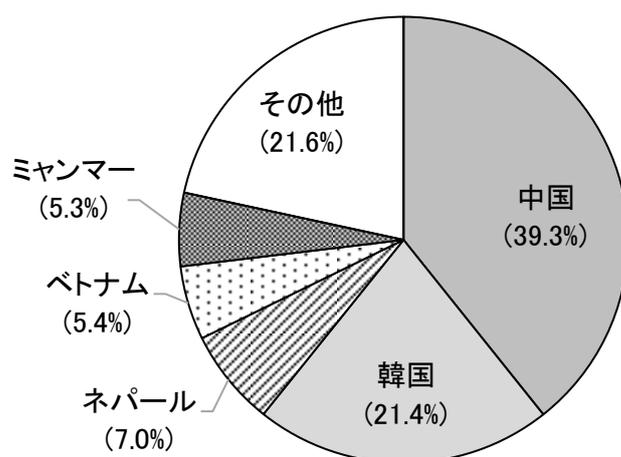
居住地域の集計にあたっては、地域的特性を把握するために、区役所および各特別出張所管轄に基づき新宿区内を10地域に分類する。

◆居住地域内該当町丁目

地域	該当町丁目	A	B	C	D (=B/A *100)
		住民基本 台帳人口 (人)	外国人 人口 (人)	日本人 人口 (人)	外国人 人口率 (%)
全体		347,984	41,851	306,133	12.0
四谷	四谷一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、四谷本塩町、四谷三栄町、四谷坂町、若葉一丁目、同二丁目、同三丁目、須賀町、左門町、信濃町、南元町、荒木町、舟町、愛住町、大京町、霞ヶ丘町、内藤町、片町、住吉町〔2番(一部)、8番(一部)〕、新宿一丁目、同二丁目、同三丁目〔1番～14番15番(一部)、16番、17番(一部)、30番、31番(一部)、32番〕同四丁目、新宿五丁目〔1番～12番、13番(一部)、14番(一部)、15番～17番、18番(一部)〕、歌舞伎町一丁目〔1番(一部)〕	40,236	2,735	37,501	6.8
笹塚町	市谷田町一丁目、同二丁目、同三丁目、市谷本村町、市谷砂土原町一丁目、同二丁目、同三丁目、市谷左内町、市谷加賀町一丁目、同二丁目、市谷甲良町、市谷船河原町、市谷長延寺町、市谷鷹匠町、市谷山伏町、市谷八幡町、神楽坂一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目、細工町、二十騎町、揚場町、津久戸町、東五軒町、西五軒町〔1番(一部)、2番～13番〕、赤城元町、南榎町、袋町、弘方町、南町、北町、納戸町、南山伏町、北山伏町、白銀町、下宮比町、矢来町、若宮町、岩戸町、中町、笹塚町、横寺町、筑土八幡町、新小川町、神楽河岸	40,023	1,956	38,067	4.9
榎町	市谷薬王寺町、市谷柳町、市谷仲之町、赤城下町、天神町、榎町、東榎町、早稲田町、早稲田南町、馬場下町、原町一丁目、同二丁目、同三丁目、河田町〔2番(一部)〕、若松町〔5番(一部)、6番(一部)〕、喜久井町、築地町、弁天町、中里町、山吹町、改代町、水道町、早稲田鶴巻町、西早稲田二丁目〔1番(一部)〕、西五軒町〔1番(一部)〕	36,611	3,330	33,281	9.1
若松町	住吉町〔1番、2番(一部)、3番～7番、8番(一部)、9番～15番〕、市谷台町、富久町、河田町〔1番、2番(一部)、3番～11番〕、若松町〔1番～4番、5番(一部)、6番(一部)、7番～38番〕、戸山一丁目、同二丁目、同三丁目〔1番～15番、16番(一部)、17番、19番、20番〕、余丁町〔1番～7番、8番(一部)、9番～14番〕、西早稲田二丁目〔2番〕	33,172	3,512	29,660	10.6
大久保	新宿五丁目〔13番(一部)、14番(一部)、18番(一部)〕、同六丁目、同七丁目、歌舞伎町一丁目〔30番(一部)〕、同二丁目、大久保一丁目、同二丁目、同三丁目、戸山三丁目〔16番(一部)、18番〕、百人町一丁目、同二丁目、同三丁目〔1番～28番、29番(一部)、30番～32番〕、西新宿七丁目〔2番(一部)、3番～6番〕、余丁町〔8番(一部)〕	43,241	10,118	33,123	23.4
戸塚	戸塚町一丁目、戸山三丁目21番、下落合一丁目〔1番(一部)、3番(一部)、7番(一部)、12番、13番、14番(一部)、16番(一部)、17番(一部)〕、西早稲田一丁目、同二丁目〔1番(一部)、3番～21番〕、同三丁目、高田馬場一丁目、同二丁目、同三丁目〔1番～7番、8番(一部)、9番～15番、16番(一部)、18番(一部)、19番～46番〕、同四丁目、百人町三丁目〔29番(一部)〕、同四丁目	39,991	7,231	32,760	18.1
落合第一	上落合一丁目、同二丁目〔1番、2番、3番(一部)、4番～14番、16番(一部)〕、下落合一丁目〔1番(一部)、2番、3番(一部)、4番～6番、7番(一部)、8番～11番、14番(一部)、15番、16番(一部)、17番(一部)〕、同二丁目、同三丁目、同四丁目、中落合一丁目〔1番～15番、17番、20番、21番〕、同二丁目、同三丁目〔1番～13番、14番(一部)、15番、19番(一部)〕、同四丁目〔1番(一部)、中井二丁目〔1番～3番〕、高田馬場三丁目〔8番(一部)、16番(一部)、17番、18番(一部)〕	34,669	3,551	31,118	10.2
第二落合	上落合二丁目〔3番(一部)、15番、16番(一部)、17番～29番〕、同三丁目、西落合一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、中落合一丁目〔16番、18番、19番〕、同三丁目〔14番(一部)、16番～18番、19番(一部)、20番～29番〕、同四丁目〔1番(一部)、2番～32番〕、中井一丁目、同二丁目〔4番～30番〕	31,549	1,958	29,591	6.2
柏木	西新宿六丁目〔2番～4番、5番(一部)、6番(一部)、7番～9番、10番(一部)〕、同七丁目〔1番、2番(一部)、7番～23番〕、同八丁目、北新宿一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目	31,261	5,624	25,637	18.0
区役所・角筈	西新宿一丁目、同二丁目、同三丁目、同四丁目、同五丁目、同六丁目〔1番、5番(一部)、6番(一部)、10番(一部)、11番～26番〕、同七丁目(一部)、歌舞伎町一丁目〔1番(一部)、2番～30番〕、新宿三丁目〔15番(一部)、17番(一部)、18～29番、31番(一部)、33番～38番〕	17,231	1,836	15,395	10.7

(5) 国籍別の外国人住民人口（令和5年9月1日現在）

順位	国名	外国人住民人口
1	中国	16,452
2	韓国	8,961
3	ネパール	2,935
4	ベトナム	2,242
5	ミャンマー	2,223
6	台湾	1,742
7	米国	1,036
8	フランス	657
9	フィリピン	653
10	タイ	604
11	バングラデシュ	361
12	英国	360
13	ウズベキスタン	287
14	インド	275
15	ロシア	222
16	インドネシア	196
17	カナダ	194
18	ブラジル	177
19	ドイツ	167
20	オーストラリア	159
：	：	：
：	：	：
：	：	：
合計	130カ国（無国籍を除く）	41,851



資料：新宿区住民基本台帳

(6) 回収結果

◆全体

	標本数 (人)	有効回収数 (人)	有効回収率 (%)
外国人住民	5,000	1,024	21.2
日本人住民	2,000	751	38.4

(注) 有効回収率の計算では、標本数から無効数を差し引いた数を分母としています。

◆回収方法別の内訳と構成比

	有効回収数 (人)		構成比 (%)	
	外国人住民	日本人住民	外国人住民	日本人住民
紙回答	631	529	61.6	70.4
WEB 回答	393	222	38.4	29.6
合計	1,024	751	100.0	100.0

※あて先不明による無効の件数

	無効数 (人)	無効率 (%)
外国人住民	177	3.5
日本人住民	43	2.2

◆外国人住民調査 (母集団は 2023 年 7 月現在の 18 歳以上の外国人住民数)

	母集団	構成比 (%)	標本数	有効回収数	回収率 (%)
全体	38,937	100.0	5,000	1,024	21.2
四谷	2,596	6.7	333	103	30.9
箆笥町	1,803	4.6	232	53	22.8
榎町	3,067	7.9	393	69	17.6
若松町	2,971	7.6	382	103	27.0
大久保	9,361	24.0	1,203	268	22.3
戸塚	7,035	18.1	903	119	13.2
落合第一	3,312	8.5	426	79	18.5
落合第二	1,868	4.8	238	62	26.1
柏木	5,235	13.4	672	67	10.0
角筈・区役所	1,689	4.3	218	43	19.7
(無回答)				58	

◆日本人住民調査 (母集団は 2023 年 7 月現在の 18 歳以上の日本人住民数)

	母集団	構成比 (%)	標本数	有効回収数	回収率 (%)
全体	272,947	100.0	2,000	751	38.4
四谷	33,546	12.3	246	86	35.4
箆笥町	32,270	11.8	236	92	39.0
榎町	29,756	10.9	218	84	39.0
若松町	26,416	9.7	193	69	36.3
大久保	29,898	11.0	220	87	40.0
戸塚	29,588	10.8	217	83	38.2
落合第一	27,461	10.1	201	63	31.3
落合第二	26,466	9.7	194	81	41.8
柏木	23,471	8.6	172	53	31.4
角筈・区役所	14,075	5.2	103	32	31.1
(無回答)				16	

(7) アンケート調査結果の見方

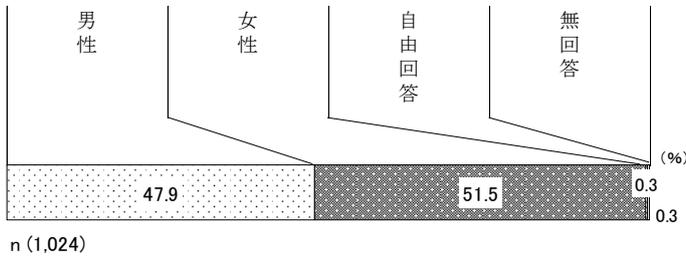
- ①集計は、小数点以下第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100%にならない場合がある。
- ②回答の比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100%を超えることがある。
- ③居住地域別や国籍別などの調査回答者の属性別の集計結果は、回答者属性の無回答を除いて表示している。このため、属性別の調査回答者数の合計が全体の回答者数と一致しない場合がある。
- ④基数となるべき実数は、(n)として表示した。その比率は、基数を100%として算出した。
- ⑤本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。
- ⑥図中の比率の小さい項目については、省略している場合がある。
- ⑦コメントを作成するにあたり原則、次のような表現方法を用いた。

例	表現
80.1～80.9%	約8割
81.0～82.9%	8割強
83.0～84.9%	8割台半ば近く
85.0～85.9%	8割台半ば
86.0～87.9%	8割台半ばを超え
88.0～88.9%	9割近く
89.0～89.9%	9割弱

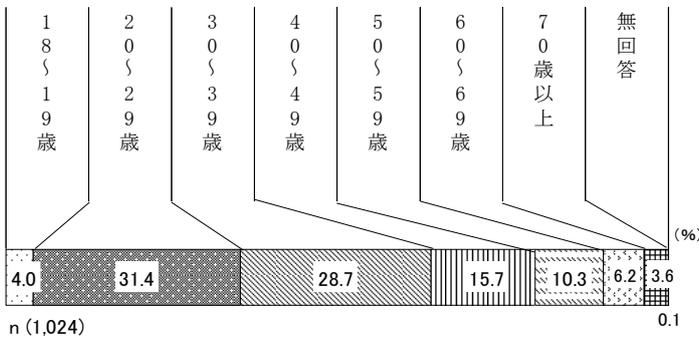
II 調査回答者の属性

1 外国人住民

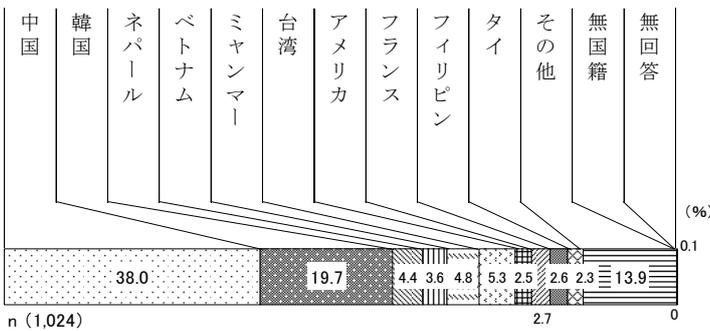
【性別】



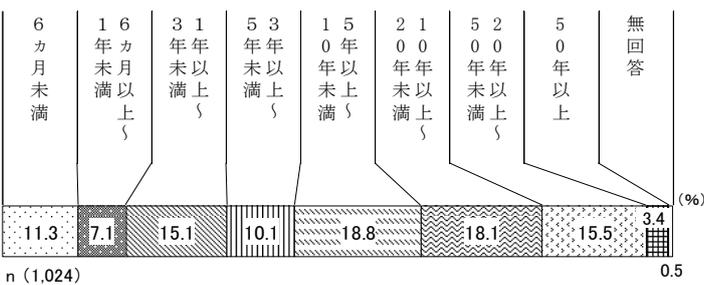
【年齢】



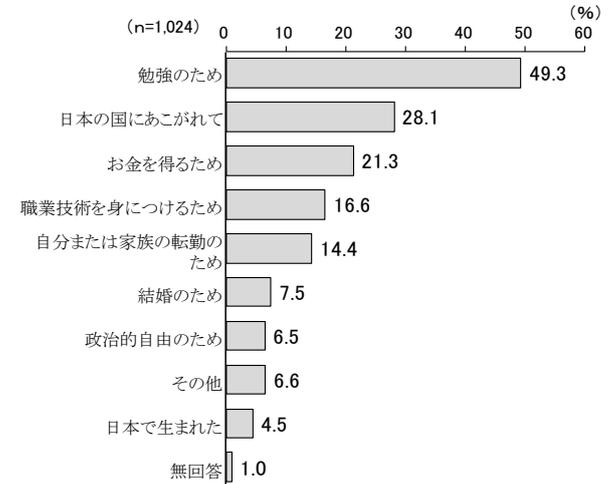
【国籍】



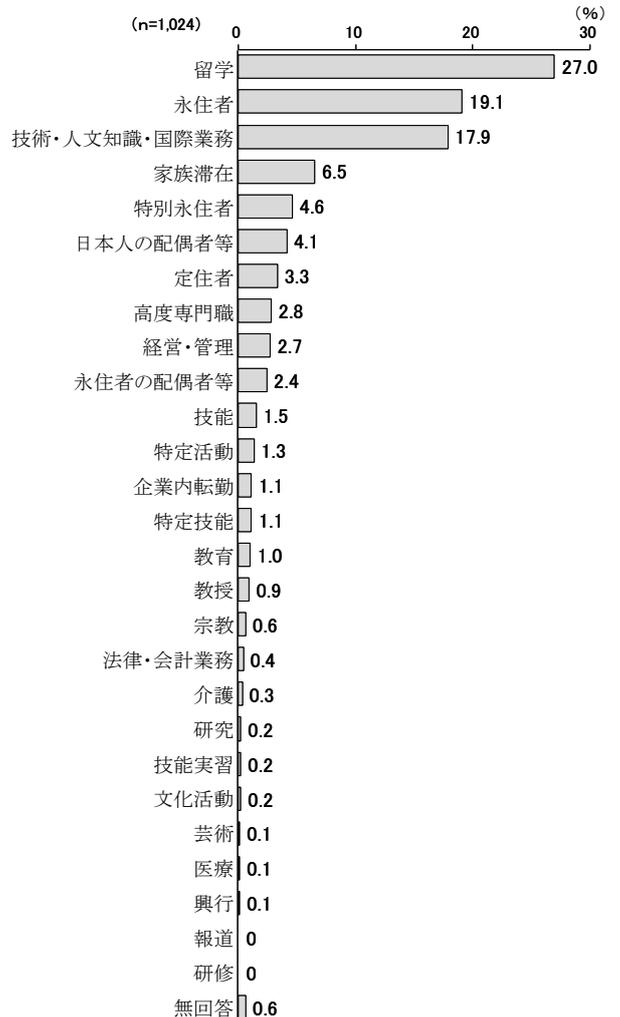
【日本での滞在期間（合計）】



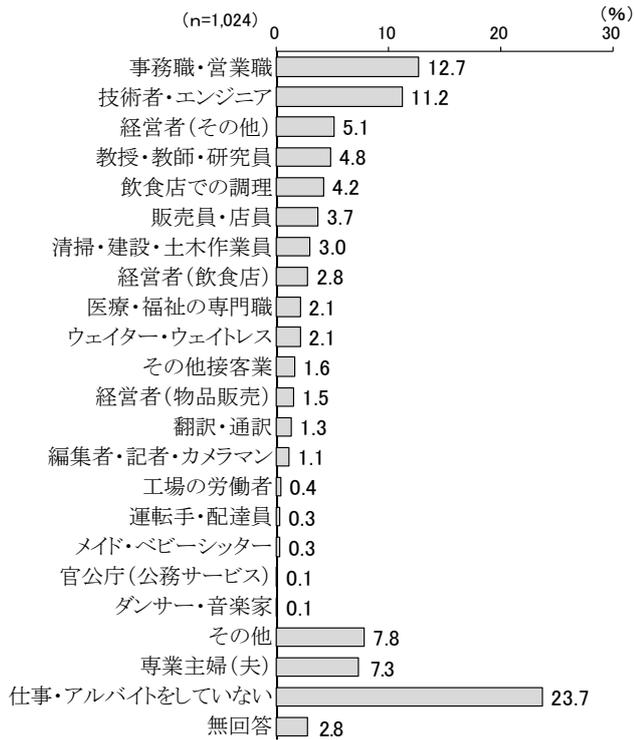
【日本に来た目的】



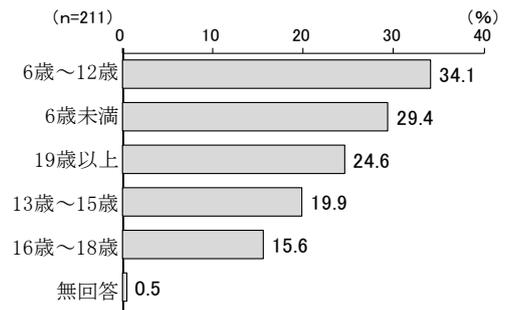
【在留資格】



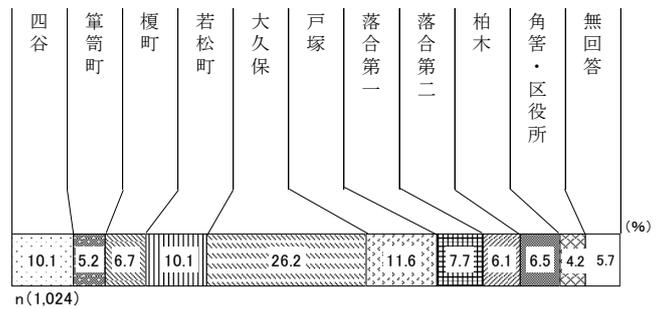
【仕事の種類】



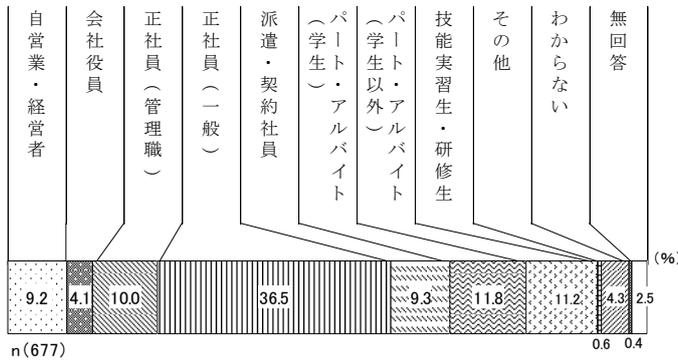
【子どもの年齢】



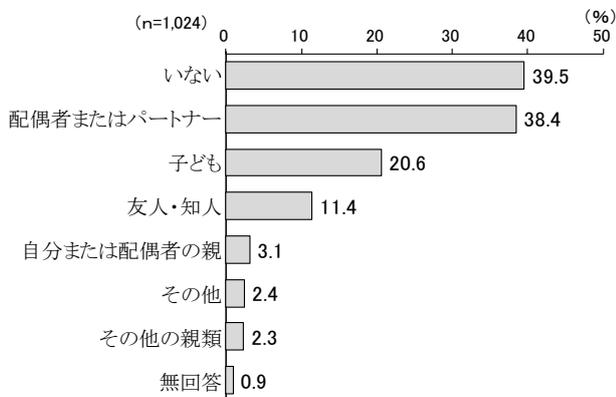
【居住地】



【仕事の立場】

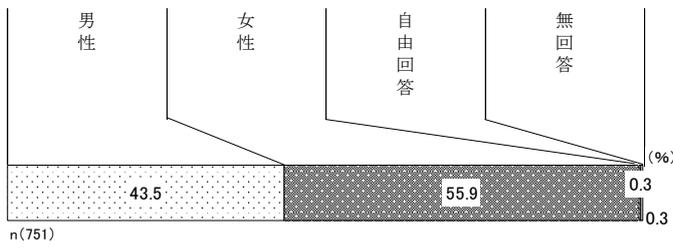


【同居している人】

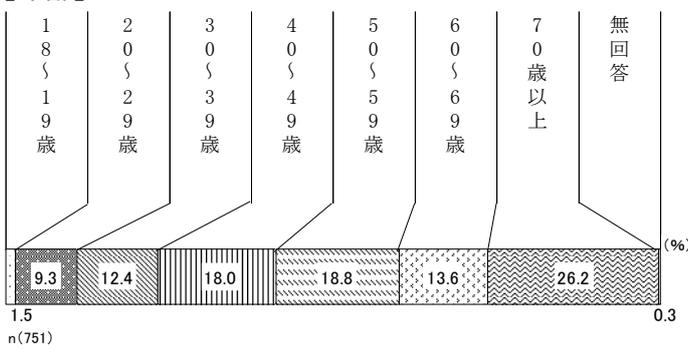


2 日本人住民

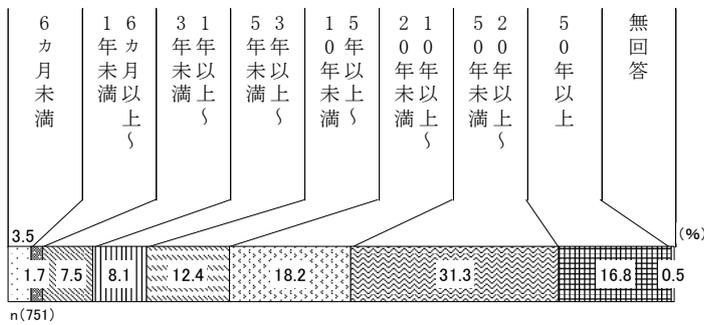
【性別】



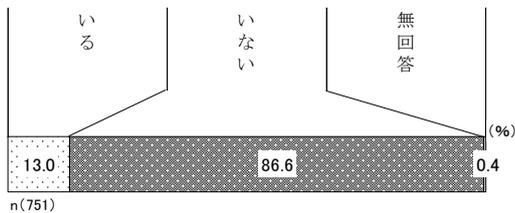
【年齢】



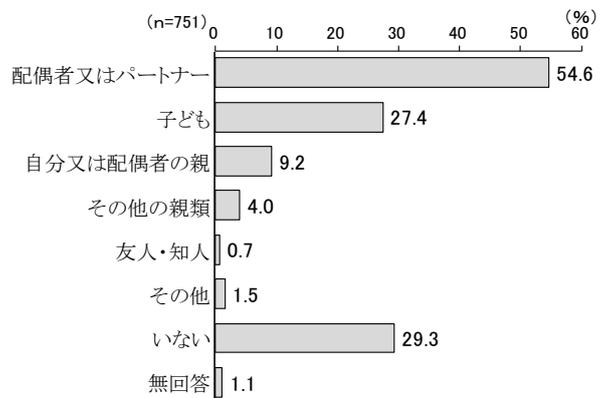
【新宿での居住年数】



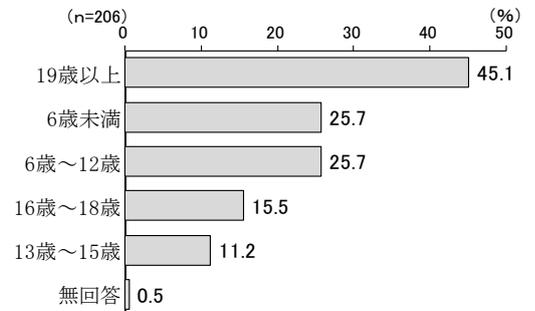
【身近な人に外国籍や外国にルーツを持つ方の有無】



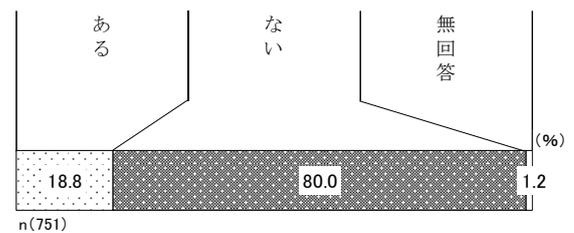
【同居している人】



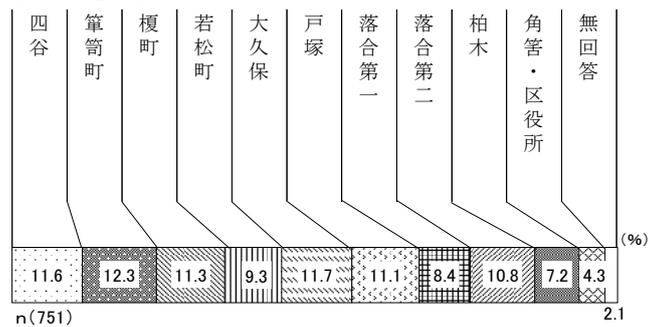
【子どもの年齢】



【海外での生活経験】



【居住地域】



Ⅲ 調査結果のポイント

1 外国人住民

(1) 日常生活での困りごと

①日本の生活で困っていることや不満なこと

ポイント

- ・最も困っているのは「ことば」、次に「友人が少ない」。
- ・特に若年層は「友人が少ない」が困りごととして多く挙げられている。

自分や自分の家族が、日本の生活で困っている困りごと・不満は、「ことば」、「友人が少ない」が2割を超えて多い。一方、「特にない」も23.3%と多くなっている。

「ことば」は“18～19歳”で5割台半ば近くと全ての年齢を通して最も多いが、“60～69歳”を除いた年齢で、いずれも2割以上が「ことば」を挙げている。

「友人が少ない」は、“18～19歳”で3割弱、“20～29歳”で2割台半ばを超え、“30～39歳”で2割台半ばとなり、全体でも平成27年度より増加傾向がみられ、コロナ禍で人との付き合いが希薄になっていることも影響していると考えられる。

図表1-1 日本の生活で困っていることや不満なこと（複数回答）《年齢別》

	n	ことば	情報	住居	出入国在留管理庁の手続き	区役所の手続き	金融機関の手続き(銀行、郵便局等)	病院・医療	年金	出産・育児	子どもの教育
全体	1024	27.4	11.0	11.7	13.8	9.7	16.9	8.9	8.8	2.5	4.2
18～19歳	41	53.7	22.0	17.1	4.9	4.9	7.3	4.9	0	0	0
20～29歳	322	29.2	12.4	9.0	14.3	10.9	20.8	7.1	8.1	1.6	0.6
30～39歳	294	27.2	11.2	17.7	16.0	11.9	20.4	10.5	11.2	5.4	7.8
40～49歳	161	28.0	9.9	10.6	14.9	9.3	16.1	11.2	7.5	3.1	9.3
50～59歳	105	21.0	6.7	4.8	12.4	5.7	11.4	9.5	6.7	0	1.9
60～69歳	63	14.3	9.5	9.5	9.5	4.8	3.2	7.9	14.3	0	0
70歳以上	37	24.3	5.4	10.8	8.1	8.1	8.1	5.4	8.1	0	2.7

	n	老後・介護	仕事	災害時・緊急時の対応	近所づき合い	友人が少ない	日本人とのトラブル	日本人からの偏見・差別	日本人が閉鎖的である	生活費など金銭的な問題	その他
全体	1024	5.2	11.8	7.2	5.0	21.3	1.7	12.8	12.7	16.0	3.6
18～19歳	41	0	7.3	4.9	2.4	29.3	2.4	9.8	2.4	19.5	0
20～29歳	322	0.9	12.4	5.9	6.2	27.0	1.9	11.8	14.6	18.3	3.1
30～39歳	294	4.4	15.0	7.1	4.8	25.5	2.0	17.7	16.3	18.0	4.1
40～49歳	161	6.8	10.6	8.1	6.8	19.9	2.5	13.0	9.9	8.7	5.0
50～59歳	105	8.6	4.8	8.6	1.9	8.6	0	8.6	8.6	13.3	5.7
60～69歳	63	17.5	15.9	9.5	1.6	4.8	0	6.3	9.5	14.3	1.6
70歳以上	37	16.2	5.4	10.8	5.4	0	0	8.1	8.1	18.9	0

「特にない」・「無回答」以外回答者数

	n	特にない	無回答
全体	1024	23.3	1.1
18～19歳	41	17.1	2.4
20～29歳	322	18.6	0.3
30～39歳	294	18.4	0.3
40～49歳	161	24.2	1.2
50～59歳	105	36.2	2.9
60～69歳	63	39.7	3.2
70歳以上	37	43.2	0

	人数	平均回答数
全体	774	2.8
18～19歳	33	2.4
20～29歳	261	2.7
30～39歳	239	3.1
40～49歳	120	2.8
50～59歳	64	2.4
60～69歳	36	2.7
70歳以上	21	2.7

■ : 10.0～19.9% ■ : 20.0～29.9% ■ : 30.0%～

②困った時の相談先

ポイント

- ・困った時の主な相談先は「知人・友人（同国人）」と「家族・親戚」。
- ・相談先は30歳台以上で日本人が増えるものの、やはり同国人のほうが多い。

困った時の相談先は、70歳以上を除いたいずれの年齢も「知人・友人（同国人）」「家族・親戚」が1位・2位である。30歳台以上で、日本人の知人・友人を挙げる人が増えるが、日本滞在期間20年以上の人が半数以上いる50歳以上でも、日本人よりも同国人の知人・友人が多い。

図表1-2 困った時の相談先（複数回答）《年齢別》

	n	知人・友人 (同国人)	知人・友人 (日本人)	家族・親戚	職場の同僚	民族団体・ 同国人の 組織	教会・寺院	ボランティ ア団体	幼稚園・保 育園・子ど も園の先 生	学校の先 生	東京都や 新宿区の 外国人相 談窓口	(%)
全体	1024	65.1	33.9	46.6	22.4	2.1	3.3	1.7	1.1	13.9	5.1	
18～19歳	41	73.2	14.6	61.0	4.9	0	2.4	0	0	29.3	2.4	
20～29歳	322	78.3	23.6	43.2	15.5	0.9	0.9	0.6	0	29.5	4.3	
30～39歳	294	64.3	37.8	46.3	31.3	2.0	2.4	1.7	1.7	7.8	5.8	
40～49歳	161	67.1	40.4	49.1	29.2	2.5	5.0	1.9	3.7	4.3	6.8	
50～59歳	105	50.5	47.6	49.5	21.9	3.8	7.6	1.0	0	3.8	3.8	
60～69歳	63	42.9	41.3	42.9	20.6	4.8	6.3	6.3	0	1.6	7.9	
70歳以上	37	21.6	35.1	51.4	5.4	2.7	8.1	5.4	0	0	0	

	n	民生委員・ 児童委員・ 社会福祉 協議会	近くに住ん でいる人	その他	誰にも相 談しない	相談する 相手が いない	無回答
全体	1024	0.8	2.5	3.4	2.5	2.7	0.8
18～19歳	41	0	2.4	4.9	2.4	2.4	0
20～29歳	322	0.3	0.3	3.1	1.9	3.4	0
30～39歳	294	0.3	2.7	3.4	3.4	1.4	0.7
40～49歳	161	0.6	3.7	3.7	1.2	2.5	0
50～59歳	105	3.8	2.9	4.8	3.8	1.9	1.9
60～69歳	63	0	7.9	1.6	3.2	4.8	3.2
70歳以上	37	2.7	5.4	2.7	2.7	8.1	2.7

■ : 20.0～39.9% ■ : 40.0～59.9% ■ : 60.0%～

(2) ことば（日本語学習）

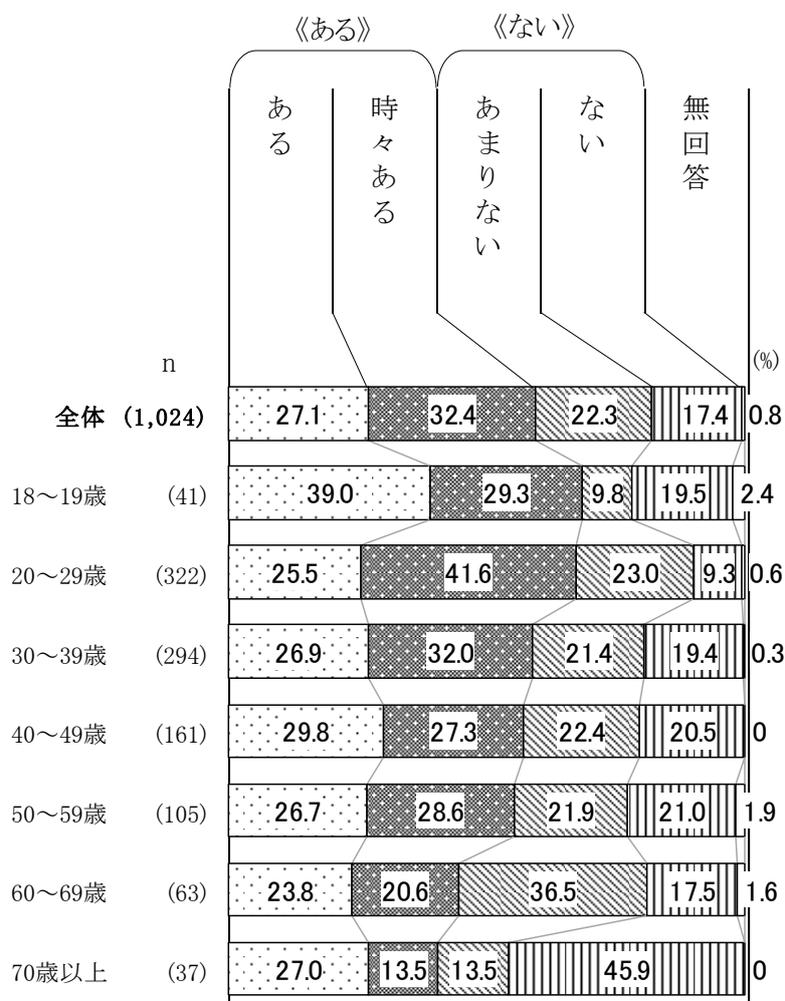
①日本語に関して困ること

ポイント

- ・約6割が日本語に関して困ることが時々でもあると回答。
- ・滞在年数が長い70歳以上でも約4割が困ることがあると回答。

日本語に関して困ることの有無を年齢別にみると、“18～19歳”で日本語に関して困ることが《ある》（「ある」「時々ある」の合算）が7割近くで最も多く、年齢が上がるほどその割合は低くなるものの、滞在年数が長い“70歳以上”でも約4割の人が困ることが《ある》と答えており、言葉の壁が大きいことがわかる。

図表1-3 日本語に関して困ることの有無《年齢別》



②日本語に関して困っている内容

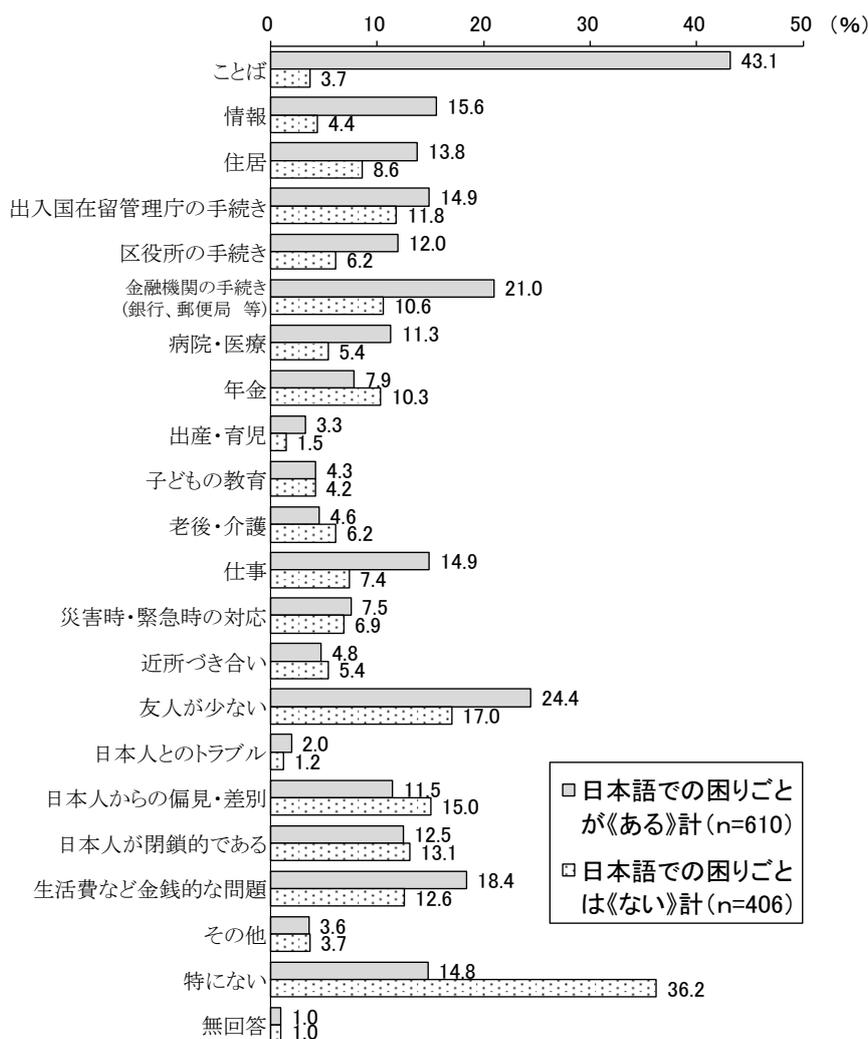
ポイント

- ・日本語で困っている人は、生活上での困りごとも多い。
- ・特に、情報取得、金融機関や公的機関、医療機関等での手続きにサポートが必要。

日本語で困っている人は、困っていない人に比べて、生活上での困りごとが多くなっている。

日本語に関して困ることが《ある》人が、そうでない人に比べて、生活上で（「ことば」を除いて）困っている回答割合の差が大きいのは、「情報」「金融機関の手続き」（以上、10ポイント以上の差）、「仕事」「友人が少ない」（以上、7ポイント以上の差）、「病院・医療」「区役所の手続き」「生活費など金銭的な問題」「住居」（以上、5ポイント以上の差）などとなっている。地域日本語教育の取組のほか、とくに生活に必要な情報の取得や金融機関や公的機関、医療機関などの手続きや日本語以外での相談対応などサポートが求められていることがわかる。

図表1-4 日本の生活で困っていることや不満なこと（複数回答）《日本語での困りごとと有無別》



③日本語に困ったときの対応

ポイント

・日本語に困った時は7割以上が「通訳・翻訳アプリを活用する」と回答。

「通訳・翻訳アプリを活用する」が7割以上、次いで「日本語ができる友人を頼る」が5割近くで、日本語に困った時の対応は主にこの2つとなっている。

年齢別に見ていくと、「通訳・翻訳アプリを活用する」が全体で73.0%と7割台半ば近くで、外国人が日本で暮らす外国人にとってICT活用が便利で不可欠な存在であることがわかるが、60歳台以上では「通訳・翻訳アプリを活用する」が3割台半ばかそれ以下に留まっており、身近な人に手伝ってもらっている（もらう必要がある）と思われる。

図表1-5 日本語で困った時の対応（複数回答）《年齢別》

	n	日本語ができる友人を頼る	行政機関に相談する	通訳・翻訳アプリを活用する	日本語学校・日本語教室に相談する。	その他	対応できていない	無回答
全体	610	48.0	3.8	73.0	14.3	7.0	2.6	2.1
※18～19歳	28	39.3	3.6	67.9	32.1	7.1	0	3.6
20～29歳	216	42.6	2.8	84.7	19.9	4.2	1.9	0.9
30～39歳	173	49.7	4.0	71.1	12.7	8.1	4.6	2.3
40～49歳	92	50.0	5.4	78.3	7.6	3.3	2.2	0
50～59歳	58	56.9	3.4	60.3	8.6	13.8	1.7	5.2
※60～69歳	28	50.0	7.1	28.6	3.6	14.3	3.6	10.7
※70歳以上	15	73.3	0	33.3	0	20.0	0	0

(%)

■ : 20.0～39.9% ■ : 40.0～59.9% ■ : 60.0%～

(注) ※印の層はnが少ない（30人未満）ため、参考として掲載する。

④日本語の学習意向

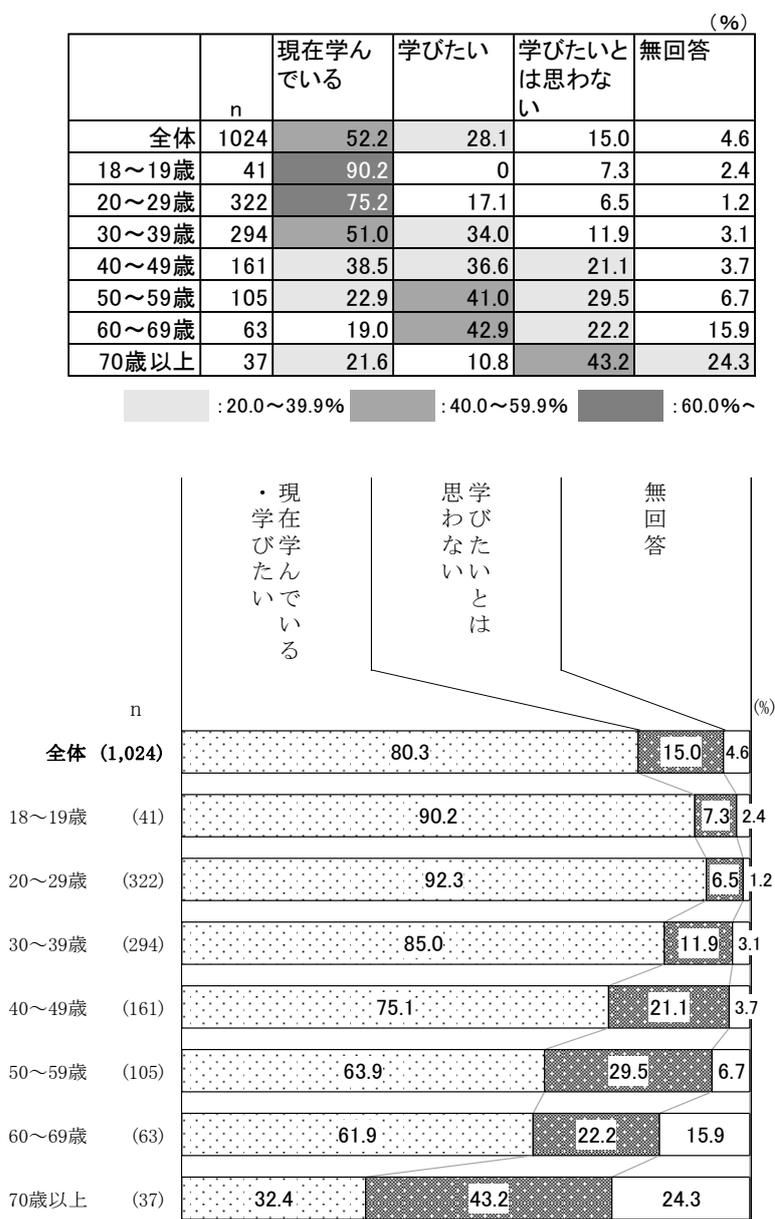
ポイント

- ・ 8割以上の方が日本語を「現在学んでいる」あるいは「学びたい」と回答。
- ・ 年齢に関わらず日本語の学習ニーズは大きい。

8割以上が日本語を「現在学んでいる」あるいは「学びたい」としており、学習意向は高い。

年齢別で見ると、留学生の割合が多い18歳から20歳台では9割以上が「現在学んでいる」あるいは「学びたい」と答え、年齢が上がるほどその割合は低くなる。しかしながら、50歳以上でも2割前後の人が「現在学んでいる」と答え、また50歳台と60歳台で4割強の人が「(現在は学んでいないが) 学びたい」と回答するなど、年齢に関係なく日本語の学習ニーズが大きいことがわかる。

図表1-6 日本語の学習意向《年齢別》



(3) 日本人とのつき合い

①日本人とのつき合いの現状

ポイント

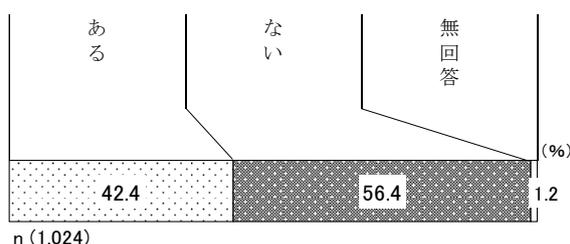
- ・日本人とつき合いがあるのは4割強で、あいさつをする程度のつき合いが多い。
- ・つき合いのない理由は「話しかけるきっかけがない」「つき合う場がない」が上位。

日本人とのつき合いが「ある」は4割強、「ない」は5割台半ばを超えている。

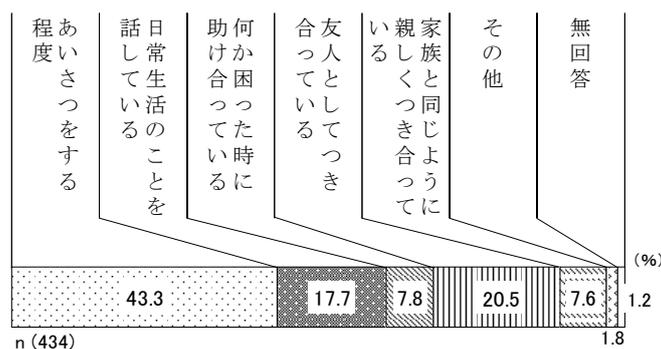
日本人とのつき合いが「ある」と回答した人に、つき合いの程度を聞いたところ、「あいさつをする程度」が4割台半ば近くで最も高く、「友人としてつき合っている」が約2割となっている。

日本人とのつき合いが「ない」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「話しかけるきっかけがないから」が7割近くで最も高く、次いで「つき合う場がないから」は4割強、「日本語を話せないから」は2割強となっている。

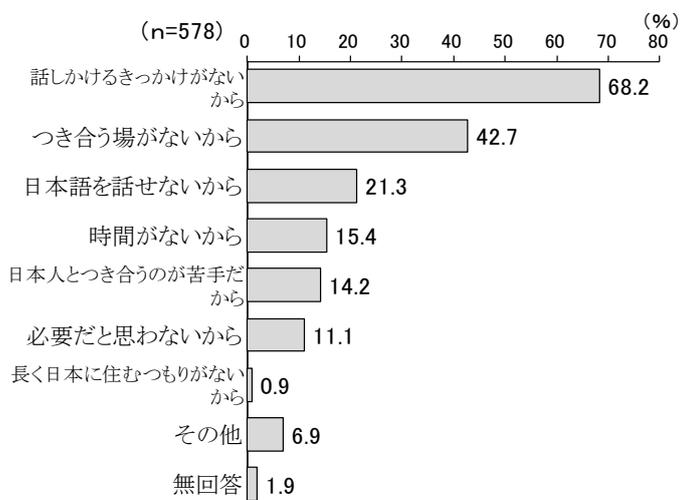
図表1-7 日本人とのつき合いの有無



図表1-8 つき合いの程度



図表1-9 日本人とのつき合いがない理由 (複数回答)

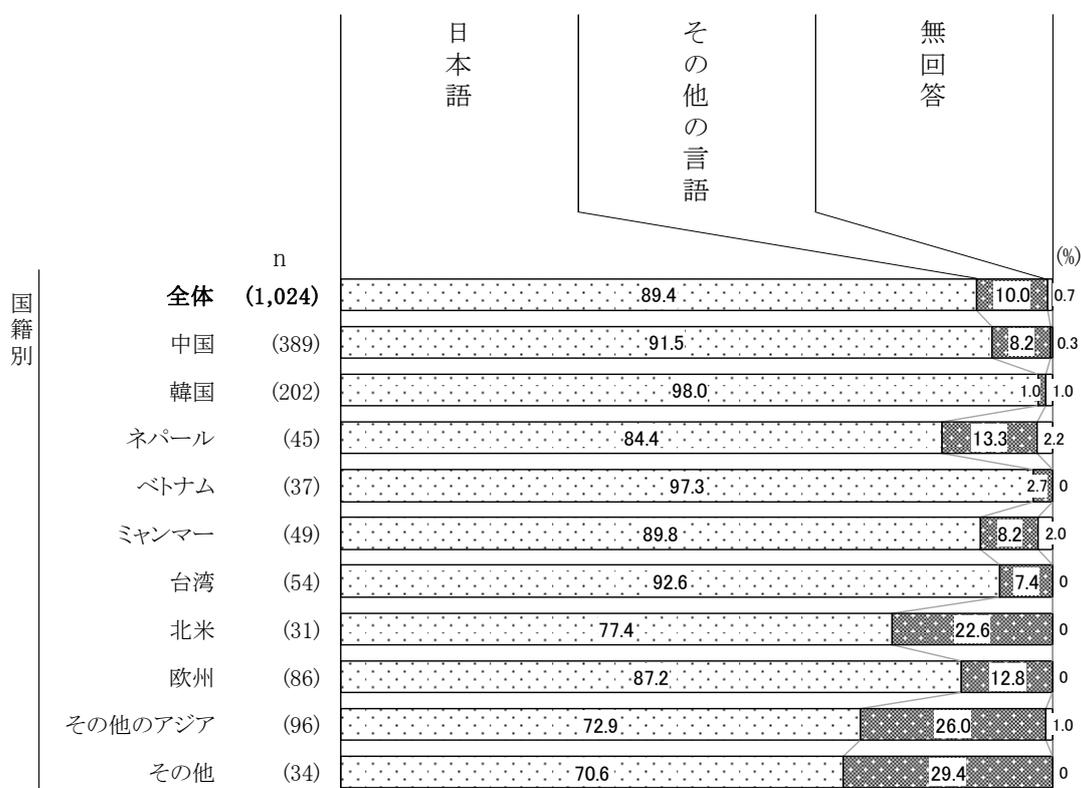


②どの言語での会話を希望するか

ポイント ・日本人と話す時に希望する言葉は9割弱が「日本語」と回答。

日本人と話すときに希望する言葉は、「日本語」が9割弱、「その他の言語」が1割となっている。
 どの国籍でも傾向は同じで、「日本語」と回答した人が大半を占めており、特に“韓国”は10割近く、“ベトナム”は9割台半ばを超えて高くなっている。
 「その他の言語」としては、「英語」と回答した人が最も多い。

図表 1-10 日本人と話すときに希望する言葉《国籍別》



◆「その他」の記述

英語[83人]、中国語[14人]、英語、日本語の両方[9人]、タイ語[4人] など

(4) 必要な情報・サービス

①新宿区で生活していく上で知りたい情報

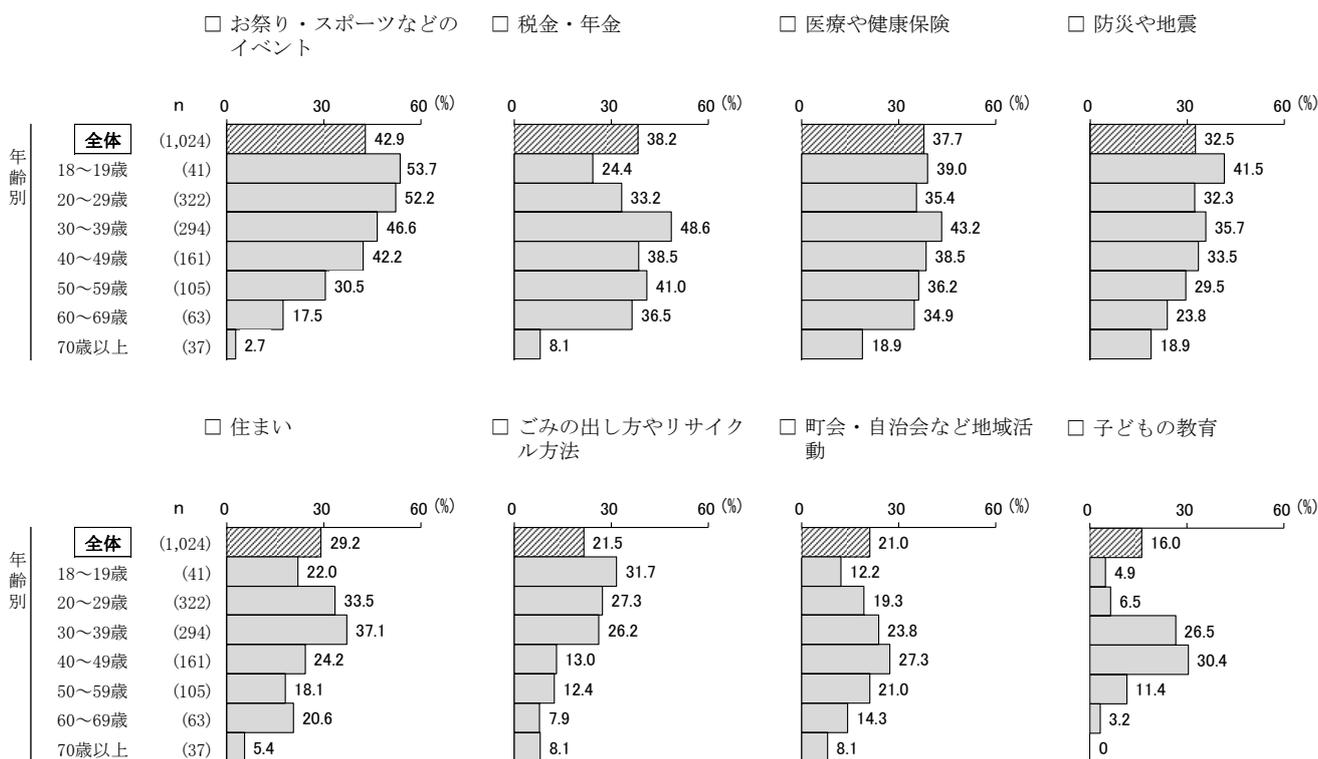
ポイント

- ・ 知りたい情報の上位3項目は「お祭り・スポーツなどのイベント」「税金・年金」「医療や健康保険」。
- ・ おおむね年齢が低いほど「お祭り・スポーツなどのイベント」、「防災や地震」、「ごみの出し方やリサイクル方法」の情報へのニーズが高い傾向がみられる。

新宿区で生活していく上で知りたい情報としては、「お祭り・スポーツなどのイベント」が4割強と最も高く、次いで「税金・年金」が4割近く、「医療や健康保険」が3割台半ばを超える。

「お祭り・スポーツなどのイベント」、「防災や地震」、「ごみの出し方やリサイクル方法」でおおむね年齢が上がるほど低くなっている。また、「町会・自治会など地域活動」と「子どもの教育」で“40～49歳”が最も高く、次いで“30～39歳”となっている。

図表1-11 新宿区で生活していく上で知りたい情報《年齢別》(上位8項目)



②情報入手のために区に望むこと

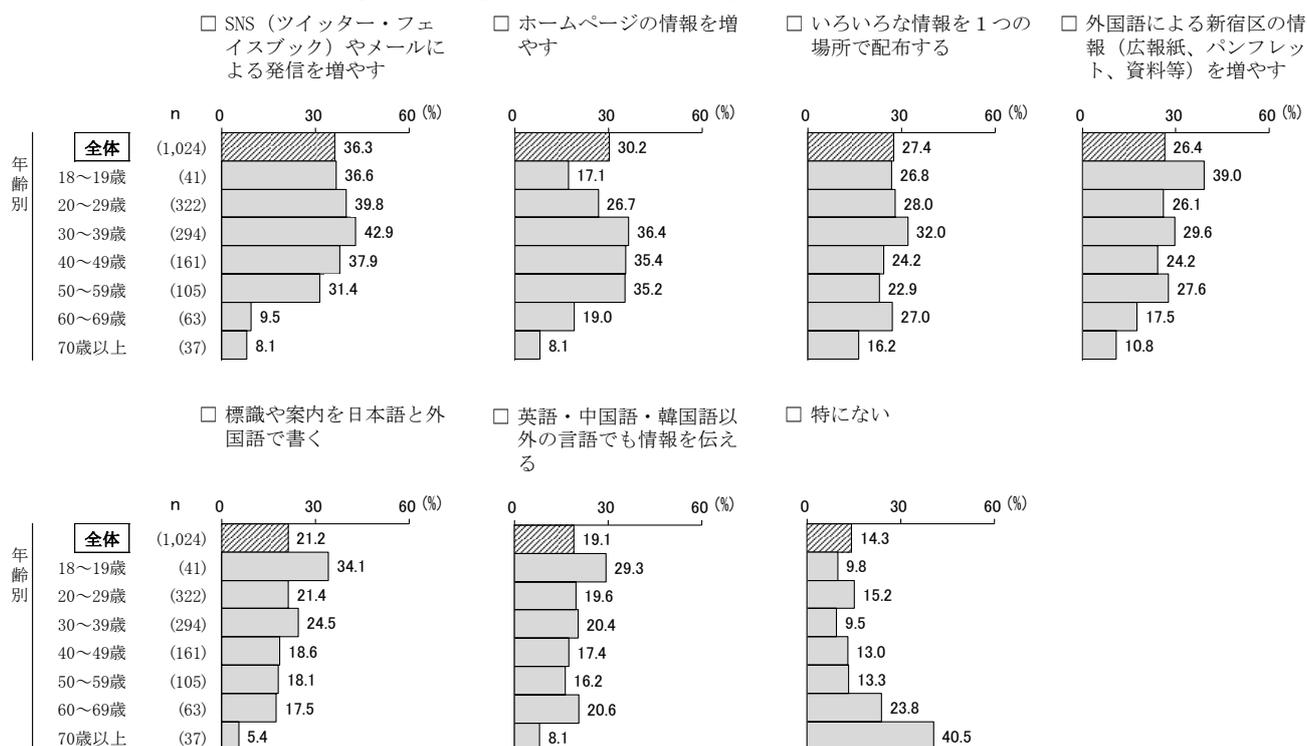
ポイント

- ・ 情報入手のために区に望むのは、SNS やホームページ等での情報発信と 1 つの場所に情報を集めて配付すること。
- ・ 特に 50 歳台までの世代で SNS やホームページ等での情報発信が望まれている。

必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいことは、「SNS（ツイッター・フェイスブック）やメールによる発信を増やす」が 3 割台半ばを超え最も高く、次いで「ホームページの情報を増やす」が約 3 割、「いろいろな情報を 1 つの場所で配布する」が 2 割台半ばを超える。

「SNS（ツイッター・フェイスブック）やメールによる発信を増やす」で 50～59 歳”までは 3 割を超えているものの、“60～69 歳”と“70 歳以上”で 1 割を下回っている。

図表 1-12 必要な情報を手に入れるために新宿区にしてほしいこと《年齢別》



(5) しんじゆく多文化共生プラザについて

ポイント

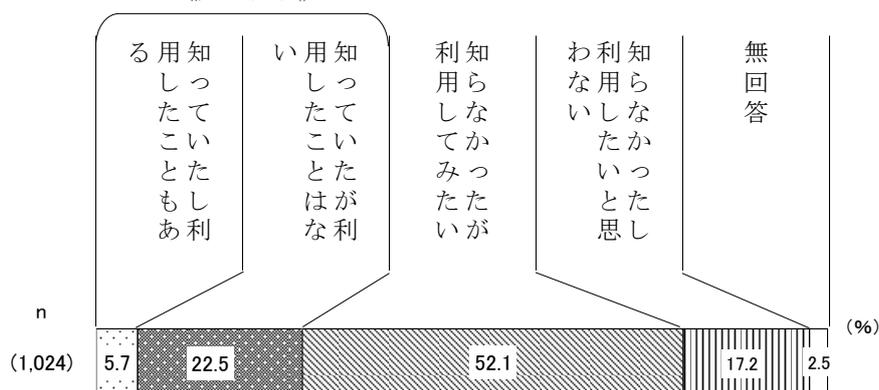
- ・3割近くが、しんじゆく多文化共生プラザを知っており、「知らなかったが利用してみたい」は5割を超えている。
- ・大事だと思う機能は「外国人相談」「日本語教室」「外国人コミュニティと日本人とをつなぐ活動」が上位3項目。

しんじゆく多文化共生プラザについて「知らなかったが利用してみたい」が5割強で高くなっている。一方、「知っていたし利用したこともある」と「知っていたが利用したことはない」を合わせると、《知っていた》は3割近く（28.2%）である。

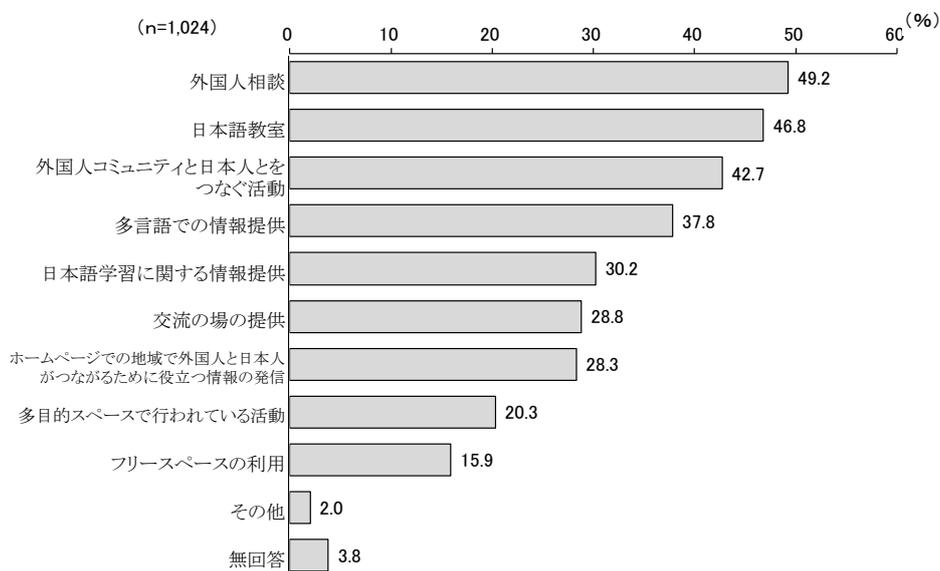
しんじゆく多文化共生プラザの機能で大事だと思うものは、「外国人相談」が5割弱と最も高く、次いで「日本語教室」が4割台半ばを超え、「外国人コミュニティと日本人とをつなぐ活動」が4割強となっている。

図表1-13 しんじゆく多文化共生プラザについて

《知っていた》



図表1-14 しんじゆく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの（複数回答）



2 日本人住民

(1) 近所に外国人が生活すること

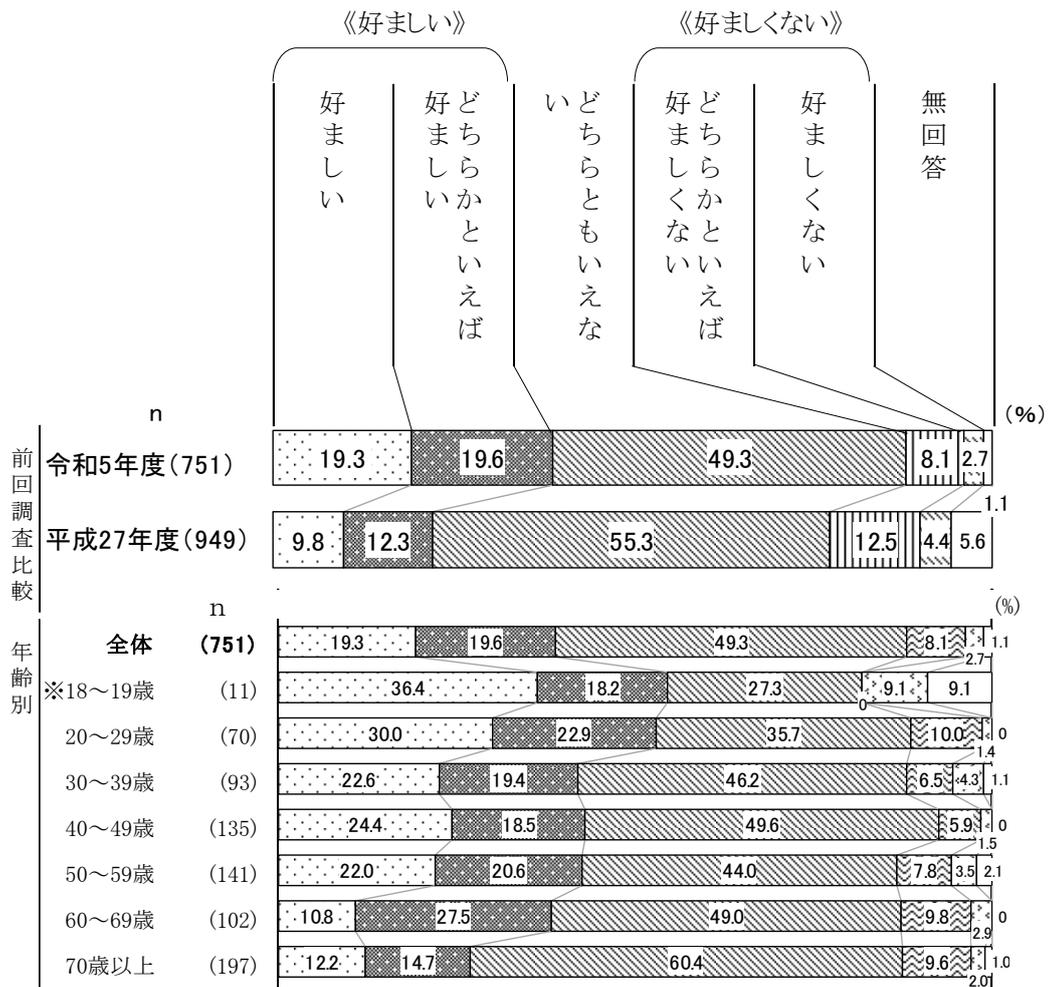
①近所に外国人が生活することについての考え

ポイント

- ・《好ましい》が前回調査から16.8ポイント増加し、《好ましくない》を大きく上回る。
- ・おおむね年齢が低いほど《好ましい》と感じている割合が高い傾向がみられる。

近所に外国人が住むことが《好ましい》は4割近くで、《好ましくない》は約1割と、《好ましい》が《好ましくない》を大幅に上回っている。平成27年度と比較すると、「好ましい」が9.5ポイント増加し、《好ましくない》が16.8ポイント増加している。また、《好ましい》は、“20～29歳”で5割強と高く、おおむね年齢が上がるほど低くなる。反対に、「どちらともいえない」はおおむね年齢が上がるほど高くなっている。

図表2-1 近所に外国人が生活することについての考え《平成27年度との比較/年齢別》



(注) ※印の層はnが少ない(30人未満)ため、参考として掲載する。

②外国人が生活することについて感じる事

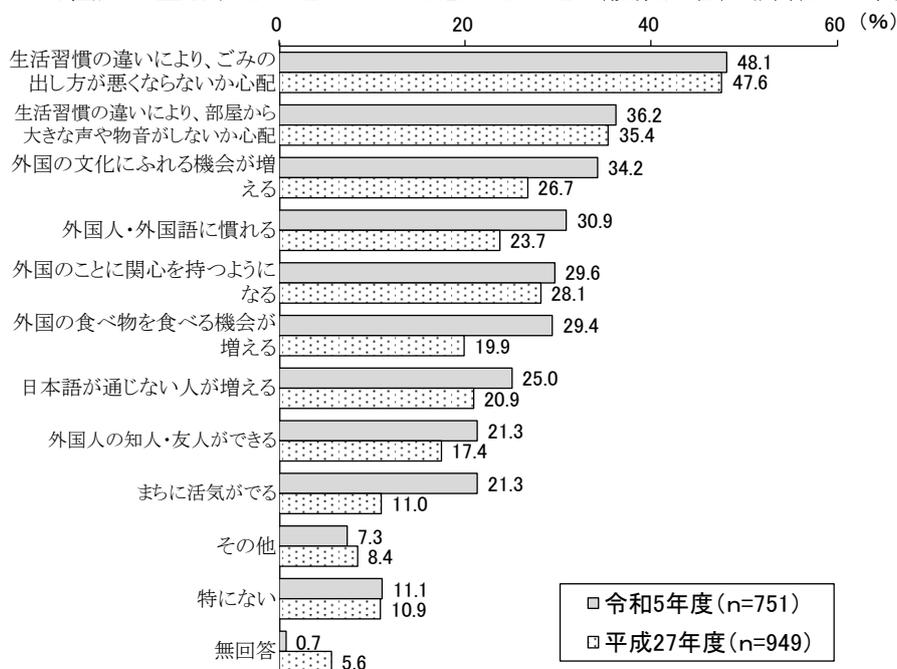
ポイント

・ごみの出し方や騒音への不安が上位ではあるものの、良い影響を感じている割合が前回調査より大きく増加。

近所に外国人が住むことについて感じる事としては、「生活習慣の違いにより、ごみの出し方が悪くならないか心配」が5割近くで最も高く、次いで「生活習慣の違いにより、部屋から大きな声や物音がしないか心配」が3割台半ばを超え、「外国の文化にふれる機会が増える」が3割台半ば近くとなっている。

平成27年度と比較すると、「外国の文化にふれる機会が増える」が7.5ポイント、「外国人・外国語に慣れる」が7.2ポイント、「外国の食べ物を食べる機会が増える」が9.5ポイント、「まちに活気がでる」が10.3ポイント、それぞれ増加しており、良いと思われることの増加率が高くなっている。

図表2-3 外国人が生活することについて感じる事（複数回答）《平成27年度との比較》



(2) しんじゅく多文化共生プラザについて

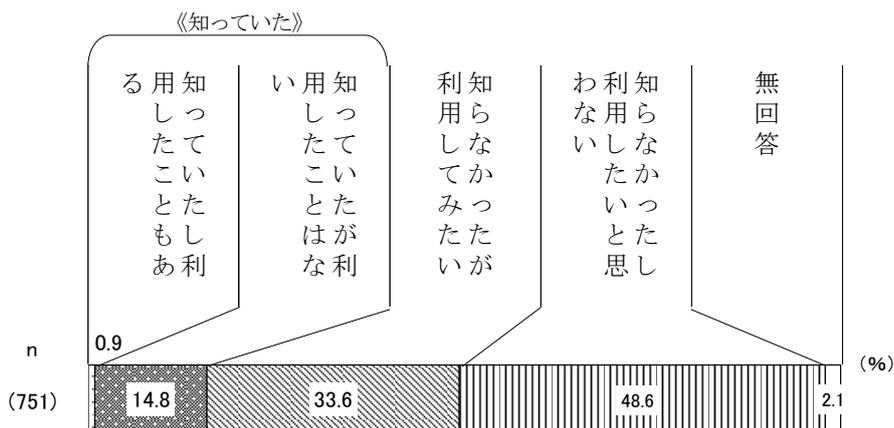
ポイント

- ・ しんじゅく多文化共生プラザの認知度は1割台半ばで、「知らなかったが利用してみたい」は3割台半ば近く。
- ・ 大事だと思う機能の上位3項目は「外国人コミュニティと日本人とをつなぐ活動」「日本語教室」「外国人相談」で、順位は異なるものの外国人住民と同じ結果。

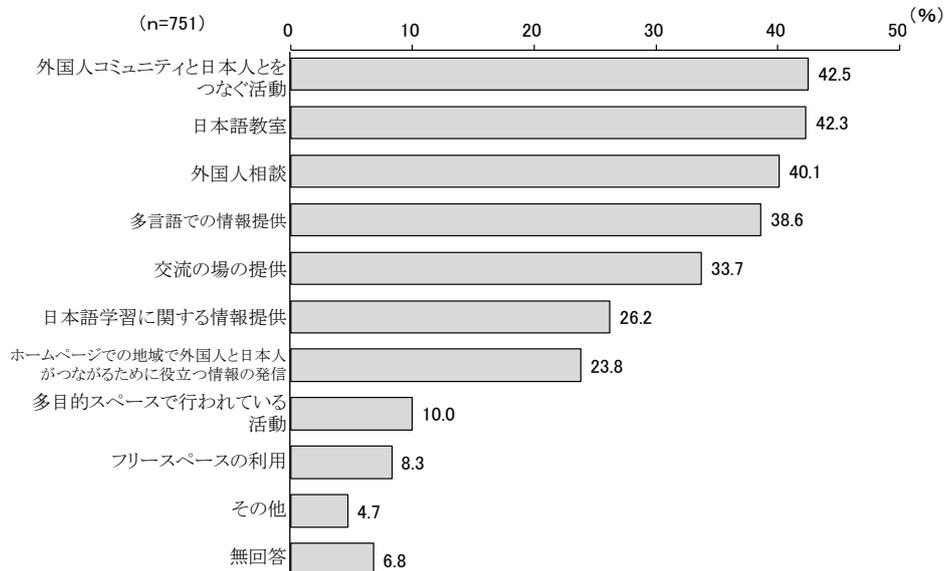
しんじゅく多文化共生プラザを「知っていたし利用したこともある」と「知っていたが利用したことはない」を合わせた《知っていた》は1割台半ば（15.7%）にとどまっている。一方、「知らなかったし利用したいと思わない」が5割近くで最も高く、次いで、「知らなかったが利用してみたい」が3割台半ば近くとなっている。

大事だと思う機能は、「外国人コミュニティと日本人とをつなぐ活動」と「日本語教室」が4割強で1番目と2番目となっている。次いで「外国人相談」で約4割となっている。

図表2-4 しんじゅく多文化共生プラザについて



図表2-5 しんじゅく多文化共生プラザの機能で大事だと思うもの（複数回答）



3 外国人住民調査と日本人住民調査の比較

(1) 日常生活でのトラブル

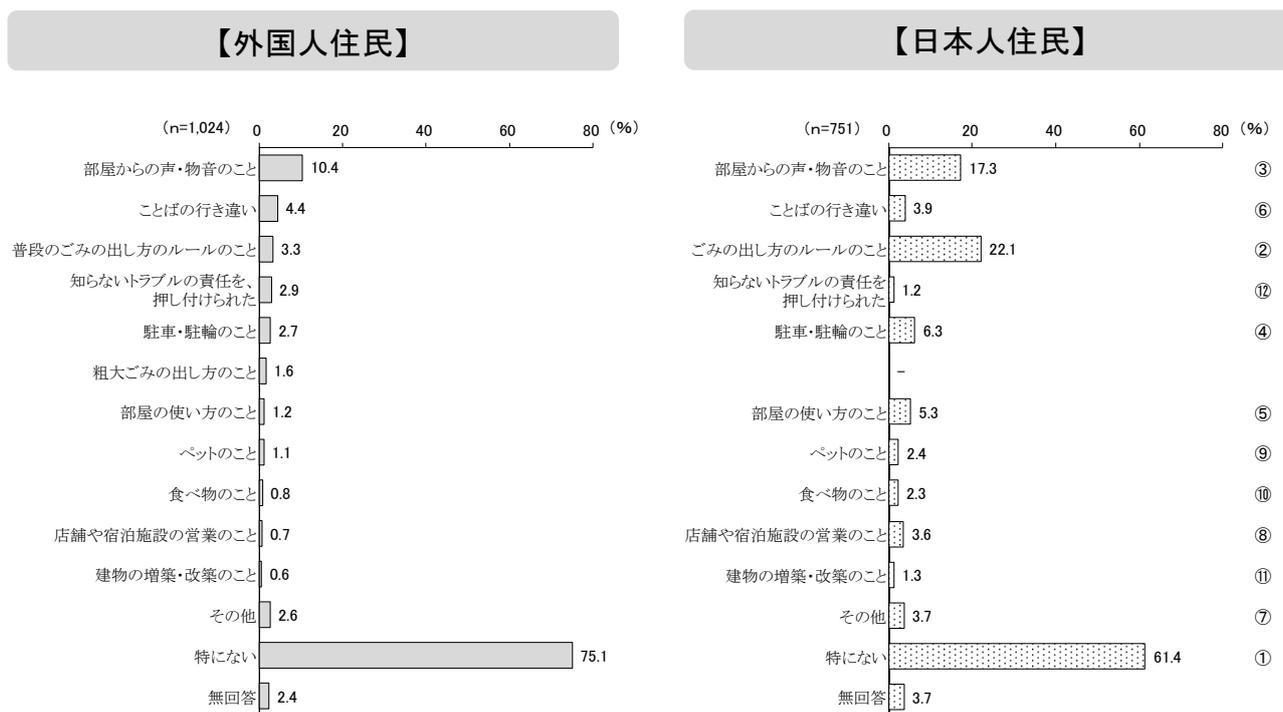
ポイント

- ・外国人住民、日本人住民ともに、トラブルは「特にない」が最も多い。
- ・ゴミ出しのルールについて、日本人住民のトラブル経験が多くなっている。

トラブル経験について、選択肢が異なるため厳密には比較できないものの、外国人住民と日本人住民ともに「特にない」（外国人：75.1%、日本人：61.4%）が最も高くなっている。

また、「普段のごみの出し方のルールのこと」（ごみの出し方のルールのこと）（外国人：3.3%、日本人：22.1%）は、外国人住民と日本人住民とで 18.8 ポイントの差があり、特にトラブル経験の差がみられる項目である。

図表 3-1 トラブル経験（複数回答）



(注) ○内の番号は日本人住民調査の順位である。

(2) 偏見・差別をなくすために必要だと思うこと

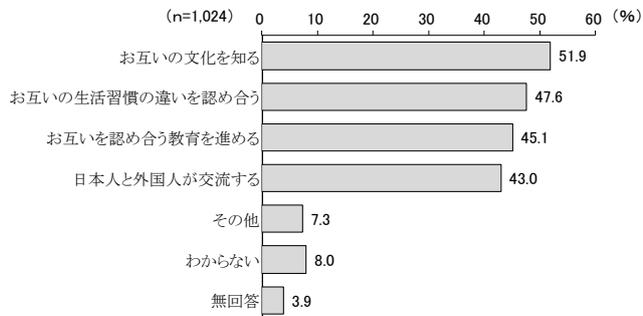
ポイント

- ・偏見・差別をなくすために必要だと思うことは、外国人住民と日本人住民で大きな差はない。
- ・「お互いの文化を知る」ことが必要だと思っている割合が多い。

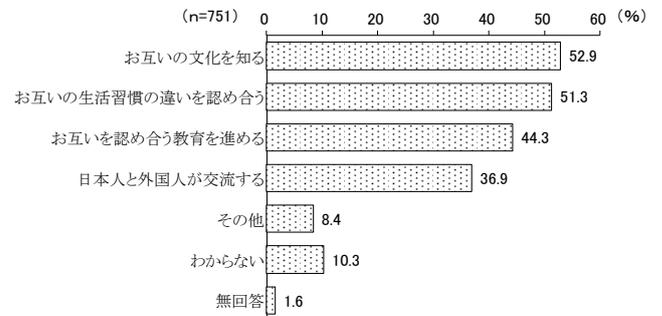
偏見や差別をなくすために必要だと思うこととしては、外国人住民、日本人住民ともに回答割合の順位は同じであり、「お互いの文化を知る」が外国人住民、日本人住民ともに5割強と最も高くなっている。

図表3-2 偏見・差別をなくすために必要だと思うこと（複数回答）

【外国人住民】



【日本人住民】



(3) 多文化共生のまちづくり

①区がすすめるべきこと

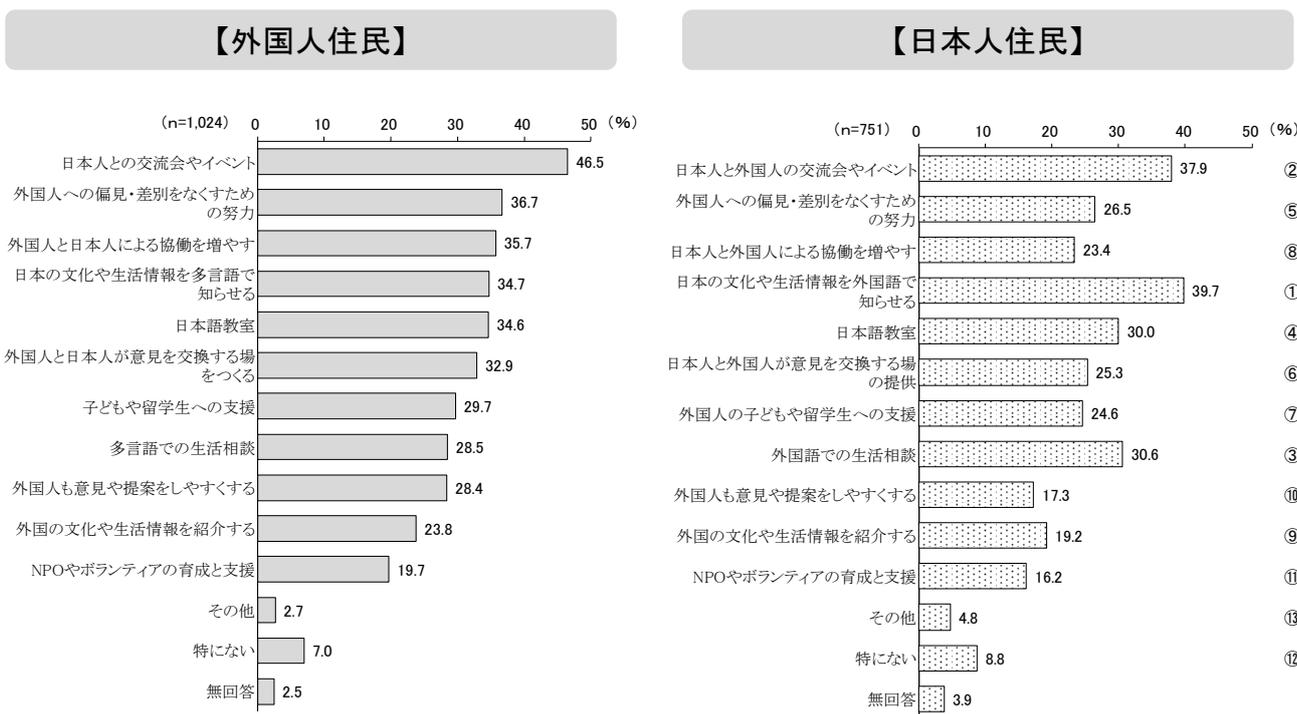
ポイント

- ・外国人住民と日本人住民に共通して上位なのは、日本人との交流会やイベント。
- ・差がみられるのは、協働を増やす（外国人が高い）、多言語での生活相談（日本人が高い）。

「日本人との交流会やイベント」（日本人と外国人の交流会やイベント）（外国人：第1位、日本人：第2位）は外国人住民、日本人住民ともに上位である。

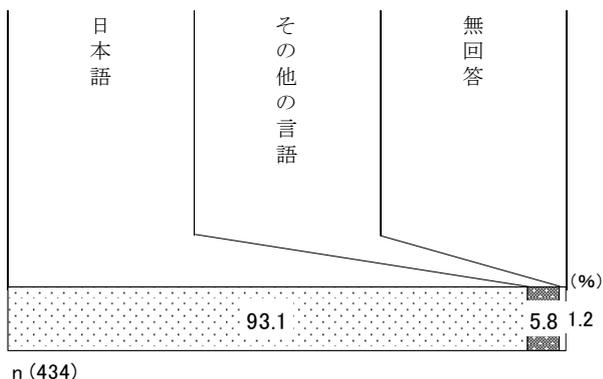
選択肢が異なるため厳密には比較できないものの、順位が5以上異なるものは、「外国人と日本人による協働を増やす」（日本人と外国人による協働を増やす）（外国人：第3位、日本人：第8位）では外国人住民が高く、「多言語での生活相談」（外国語での生活相談）（外国人：第8位、日本人：第3位）では日本人住民が高くなっている。

図表3-3 多文化共生のまちづくり推進のために新宿区が進めるべきだと思うこと（複数回答）

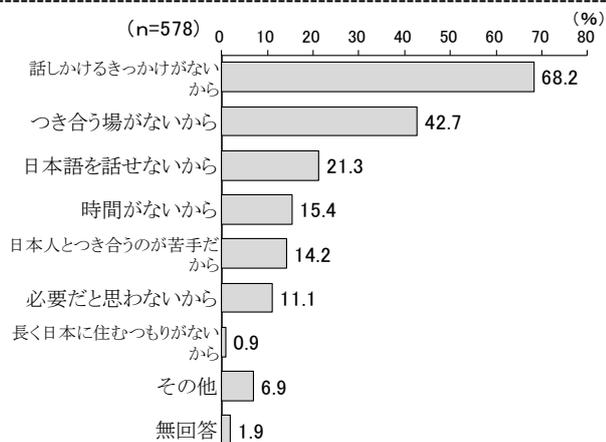


(注) ○内の番号は日本人住民調査の順位である。

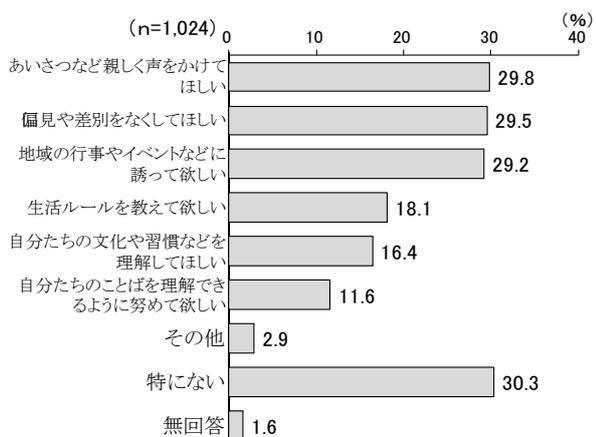
問：今まで、近くにに住む日本人と話すとき、主
どの言葉で話していますか。



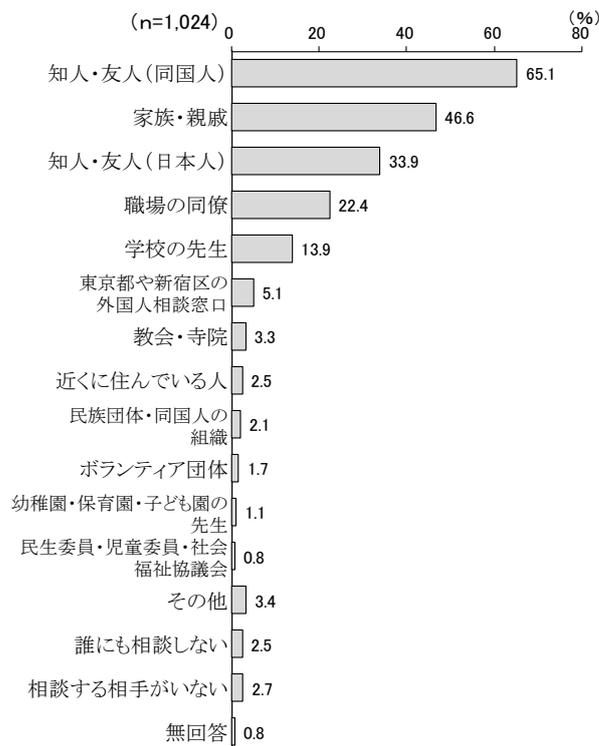
問：近くにに住む日本人とつき合いがないのはなぜ
ですか。（複数回答）



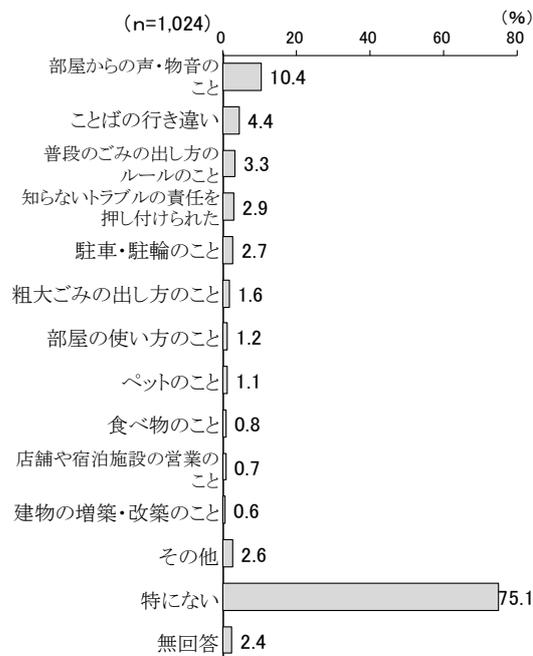
問：あなたが地域の日本人に望むことはなんですか。（複数回答）



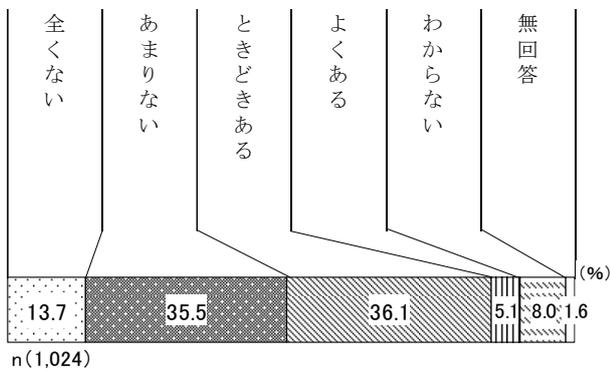
問：あなたは、日常生活のことで困った時は誰に
相談しますか。（複数回答）



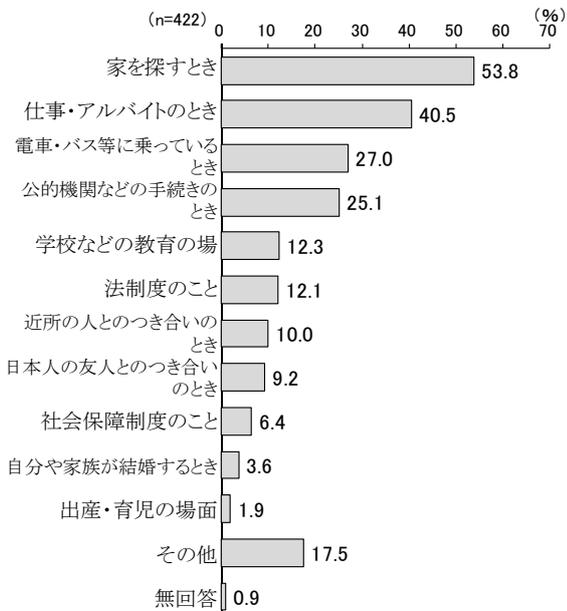
問：あなたは今までに、近くにに住む日本人と次の
ようなトラブルの経験がありますか。（複数回答）



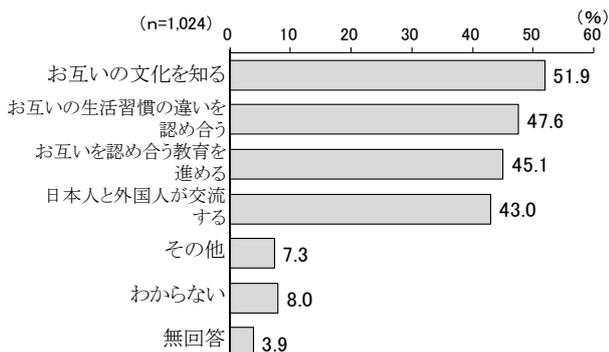
問：あなたは、ふだんの生活の中で、日本人から外国人に対する偏見や差別を感じたことがありますか。



問：偏見・差別をどのような場合に感じましたか。（複数回答）

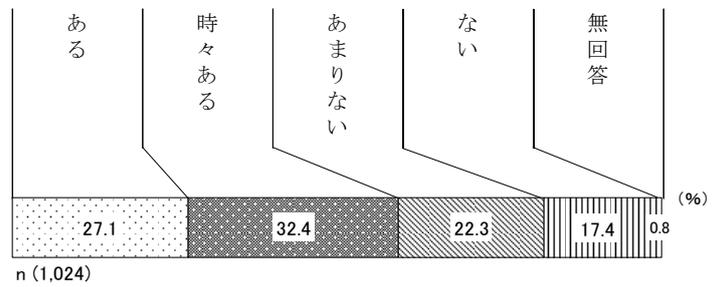


問：偏見・差別をなくすためには、何が重要だと思いますか。（複数回答）

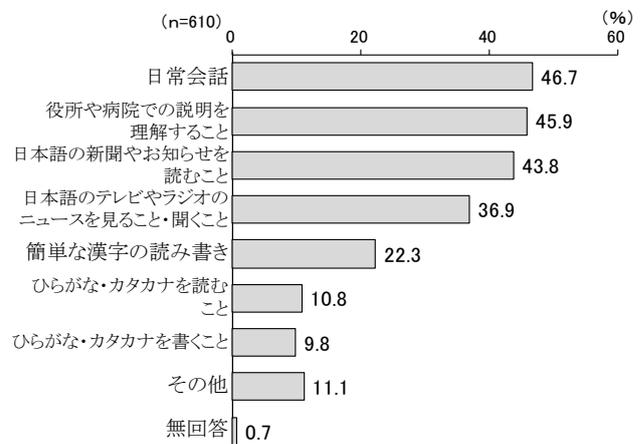


(2) ことば（日本語学習）

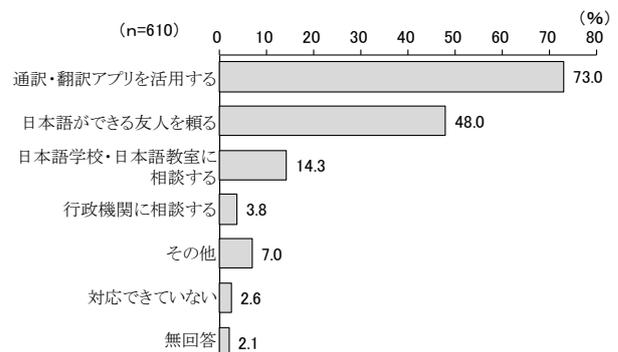
問：あなたは日本語に関して困ることがありますか。



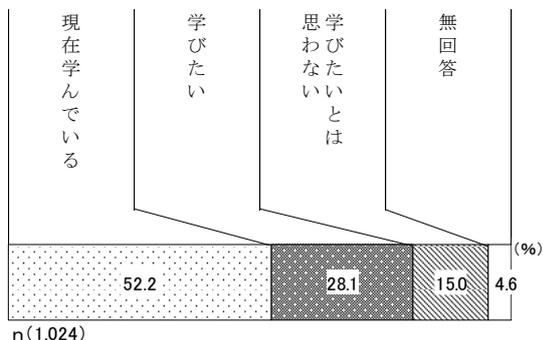
問：それはどんなことですか。（複数回答）



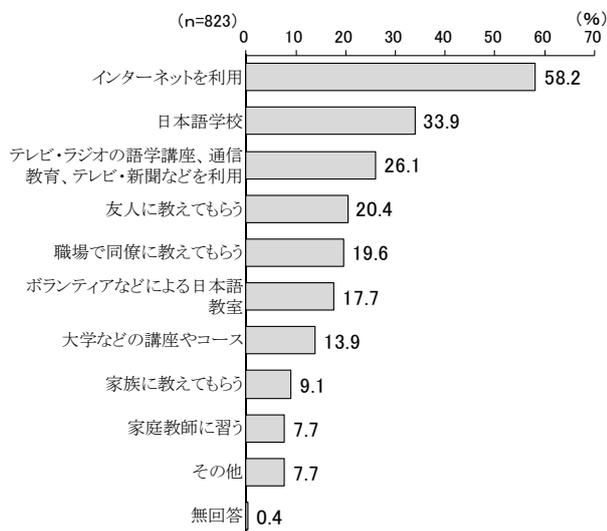
問：日本語で困った時どう対応していますか。（複数回答）



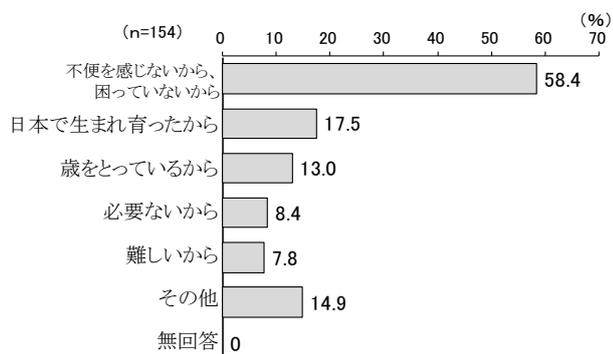
問：あなたは、今後、日本語を学びたいと思いませんか。



問：どのような方法で学んでいますか。また、どのような方法で学びたいですか。（複数回答）

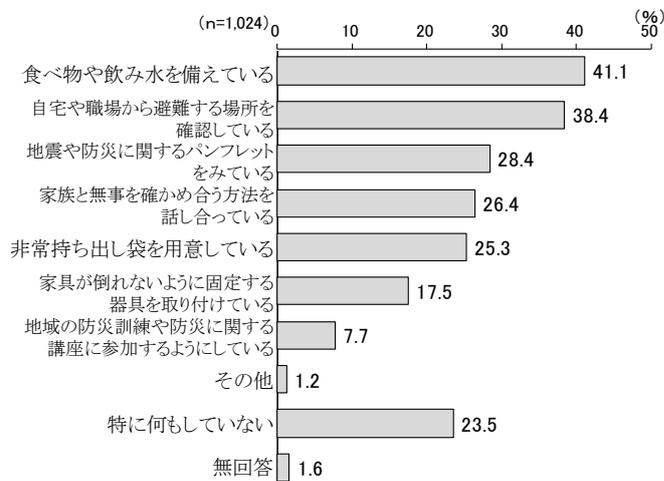


問：日本語を学びたくない理由を教えてください。（複数回答）

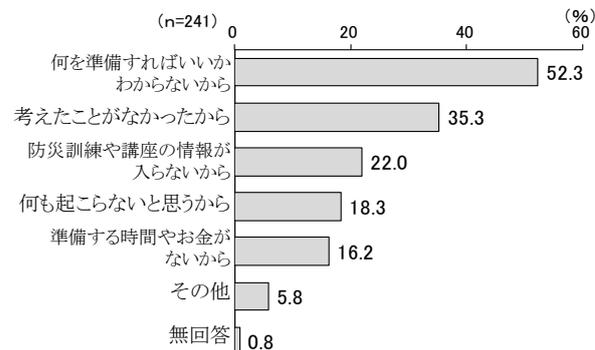


(3) 災害時・緊急時の対応

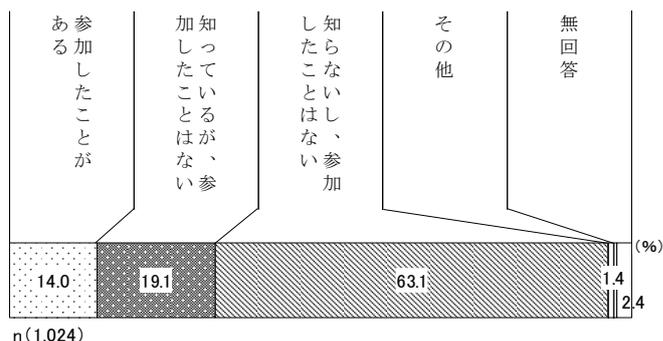
問：地震などの災害が起きた時のために、どのような準備をしていますか。（複数回答）



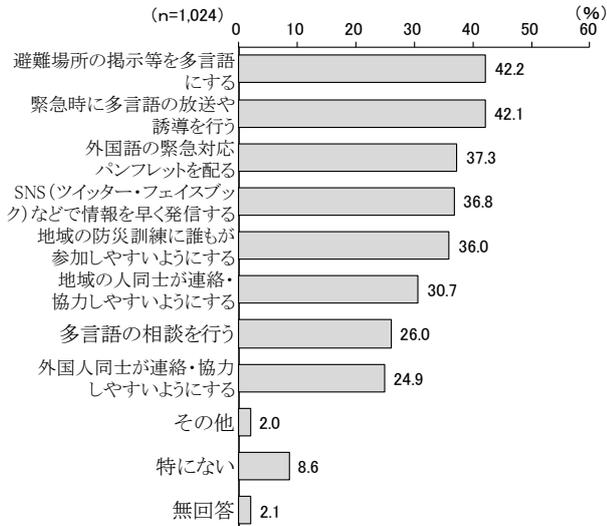
問：何もしていないのはなぜですか。（複数回答）



問：地域では、日頃から災害時に備えた防災訓練を実施しています。こうした防災訓練が実施されていることを知っていますか。また参加したことがありますか。

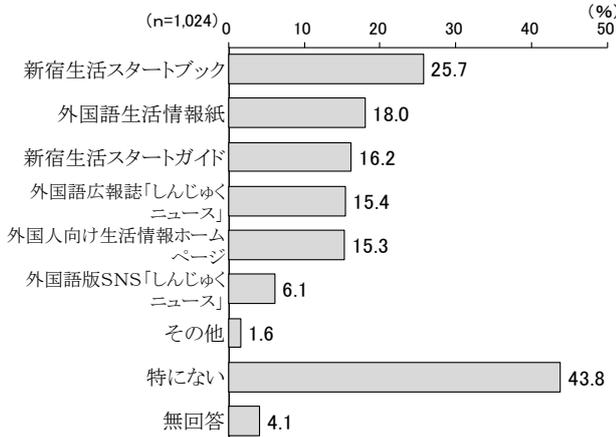


問：あなたは、新宿区にどのような災害対策をしてほしいですか。（複数回答）

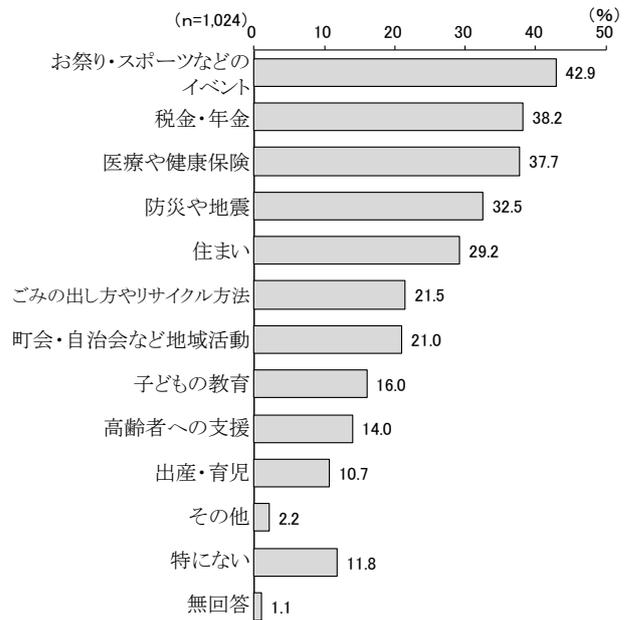


(4) 必要な情報・サービスについて

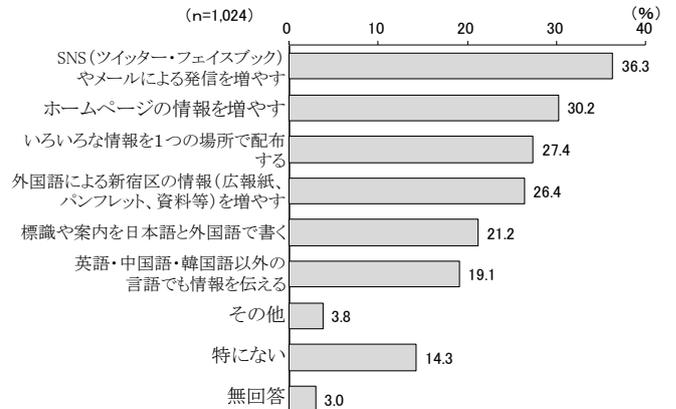
問：新宿区では外国人向けの情報を多言語(ルビ付き日本語・英語・中国語・韓国語)で提供しています。次の中で知っているものをお答えください。（複数回答）



問：新宿区で生活していく上で、どんな情報をもっと知りたいですか。（複数回答）

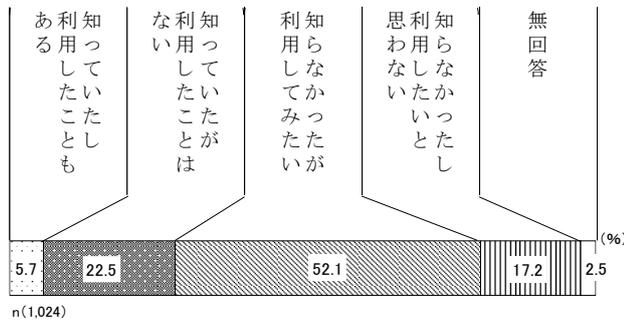


問：必要な情報を手に入れるために、新宿区にどんなことをしてほしいですか。（複数回答）

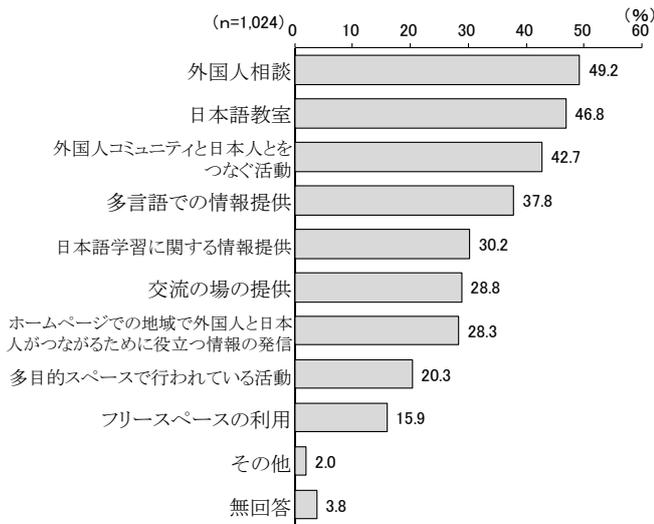


(5) 多文化共生のまちづくり

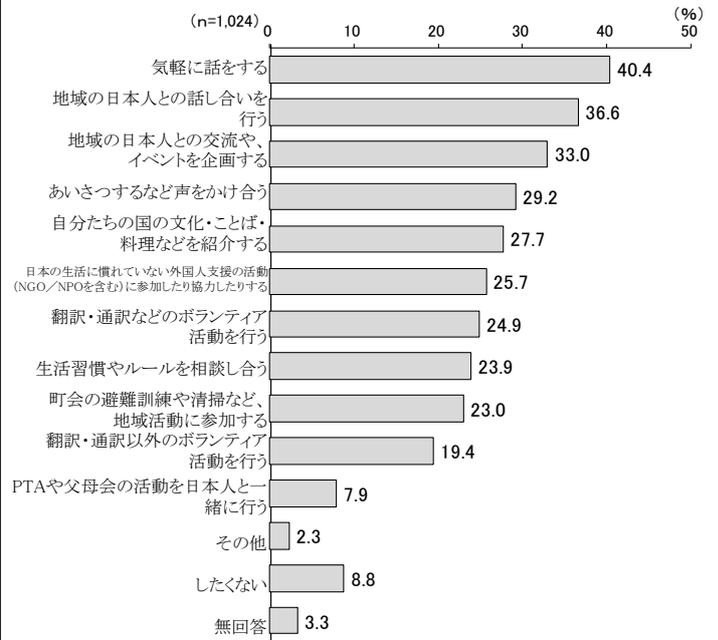
問：新宿区では、日本人と外国人の交流施設「しんじゅく多文化共生プラザ」を設置して、日本語学習、資料・情報の提供、外国人相談等を行っています。あなたは、この施設を知っていますか。



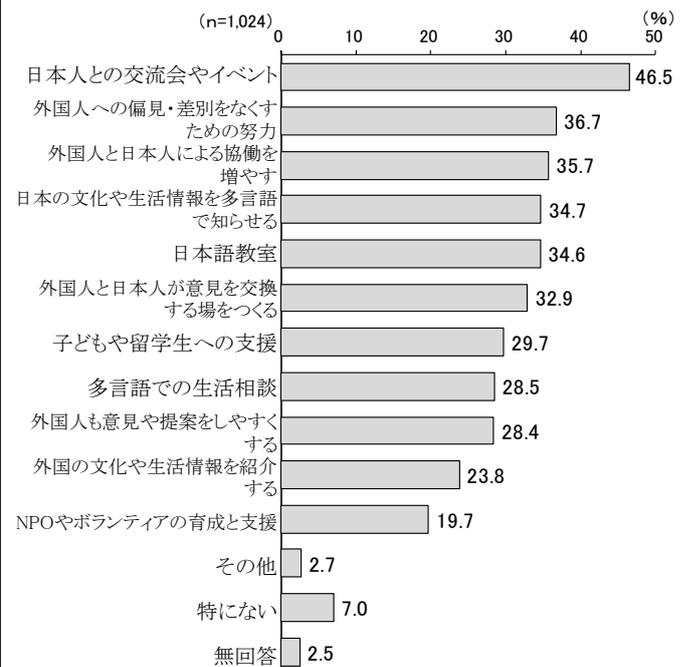
問：しんじゅく多文化共生プラザの機能で特に大事だと思うものはなんですか。（複数回答）



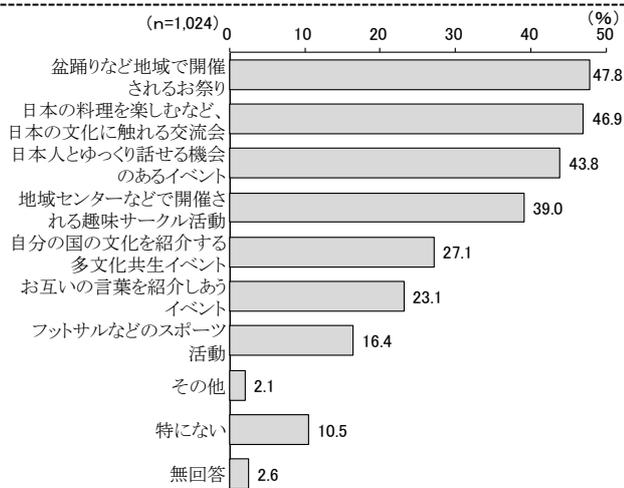
問：新宿区では「多文化共生のまちづくり」を進めるために、皆さんに能力や経験を生かして地域で活躍してほしいと考えています。そこで、あなたは、地域の中でどのような活動をしてみたいと思いますか。（複数回答）



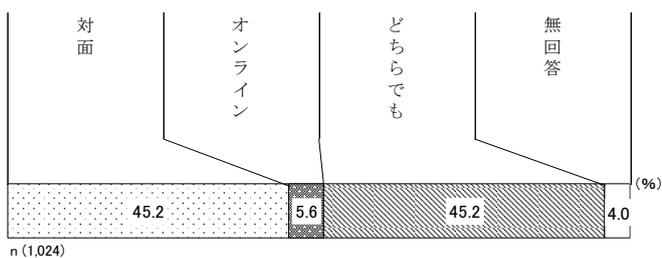
問：「多文化共生のまちづくり」を進めるために、今後の区の対応として、どのようなことを進めるべきだと思いますか。（複数回答）



問：参加したいと思える交流会・イベントはどのようなものですか。（複数回答）



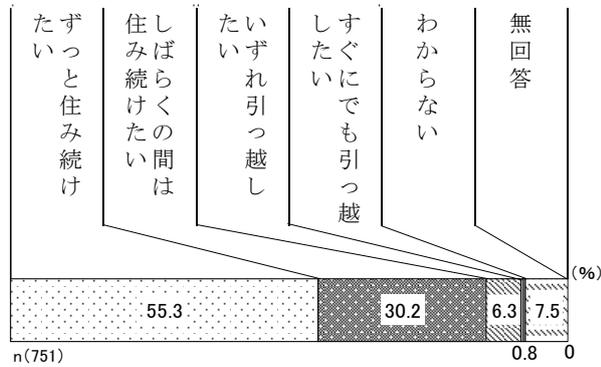
問：どのような交流方法がいいですか。



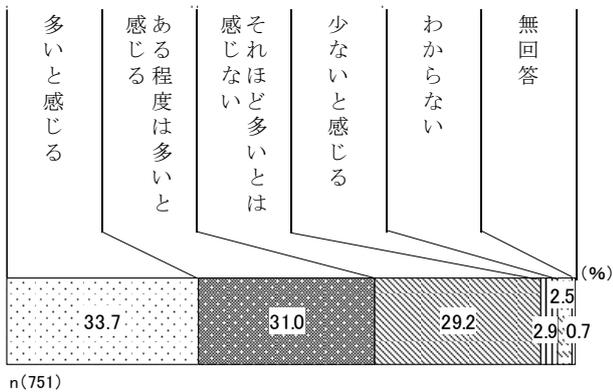
2 日本人住民

(1) 暮らし

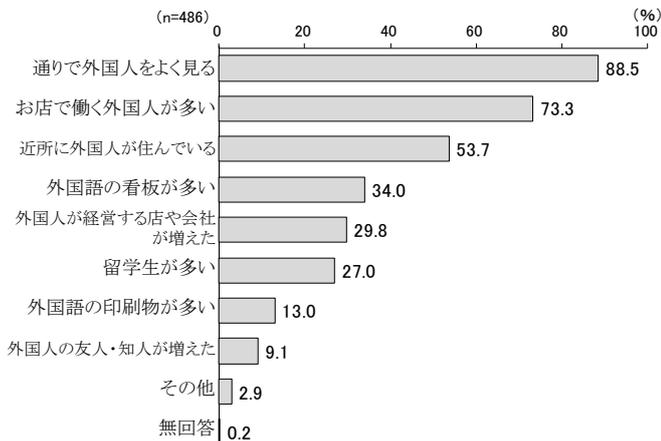
問：これからも新宿区に住み続けたいですか。



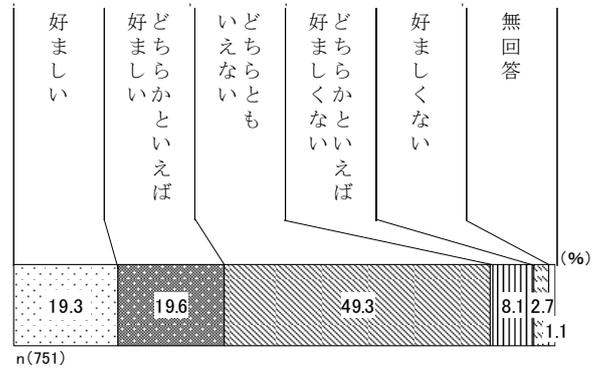
問：現在の新宿区の人口は約35万人です。そのうち約4万人が外国人です。あなたの身近には、外国人が多いと感じますか。



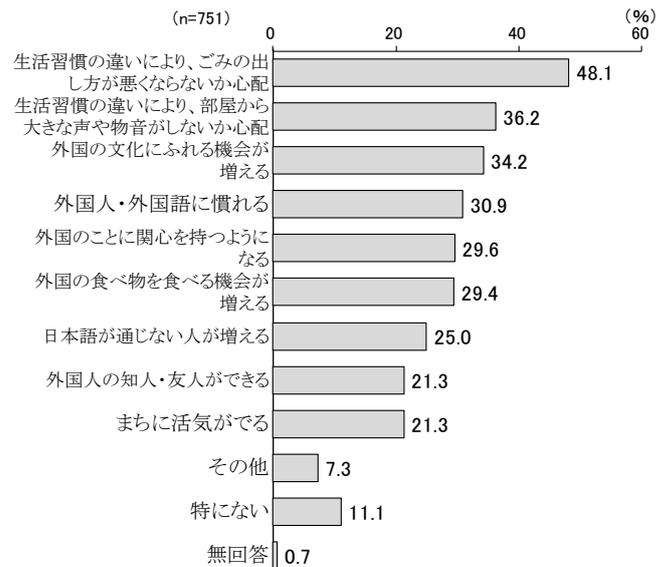
問：それはどんな時ですか。(複数回答)



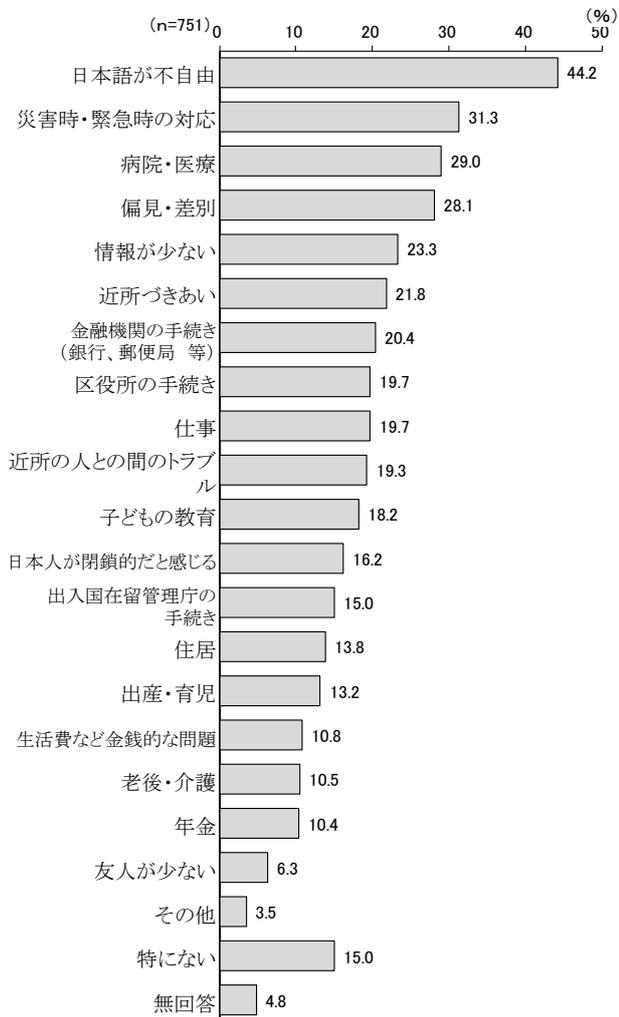
問：あなたは、外国人が生活することについてどう思いますか。



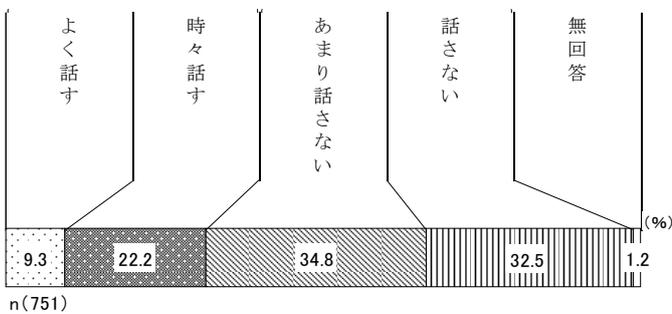
問：近所に様々な国籍の外国人が住むことについて、どのようなことを感じますか。(複数回答)



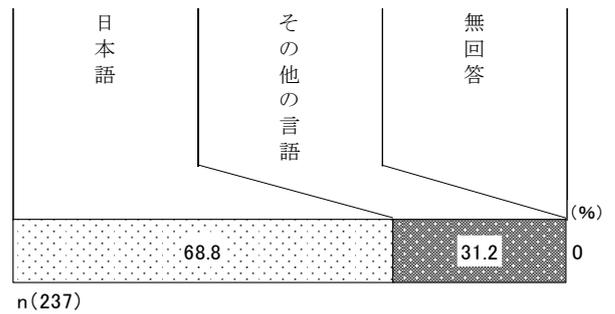
問：あなたは、あなたのまわりにいる外国人にとって、生活で困っていること、不満なことは何だと思いますか。（複数回答）



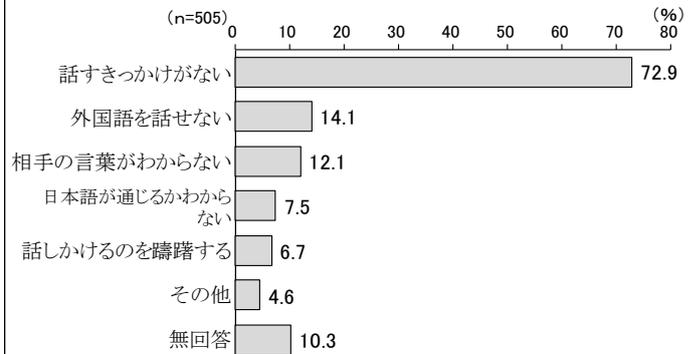
問：あなたは、普段の生活の中で外国人と話す機会がありますか。



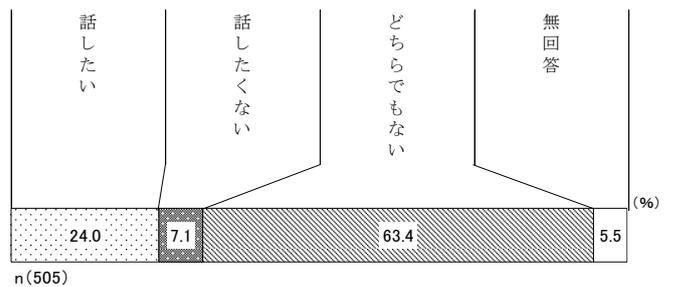
問：主にどの言葉で話しましたか。



問：話さない理由はどのようなものですか。（複数回答）

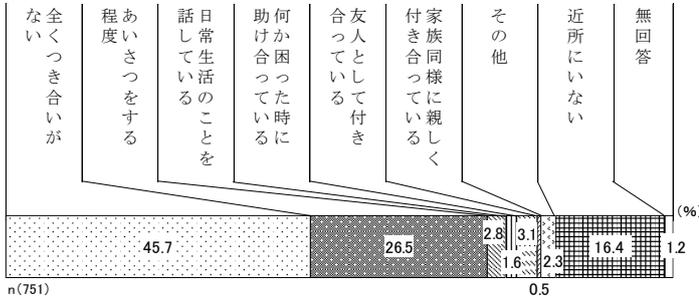


問：できれば話したいと思いますか。

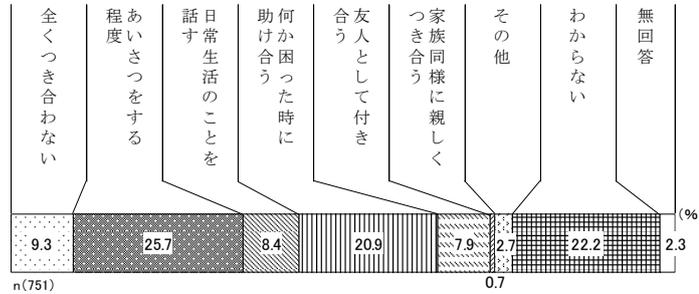


問：あなたは現在、近所の外国人とどんなつき合いがありますか。また、今後どのように接していきたいですか。

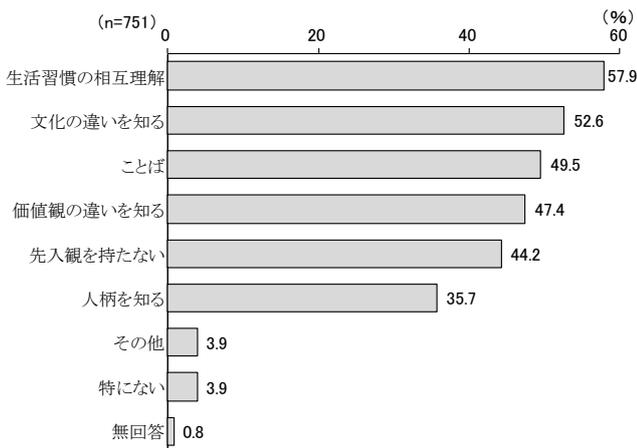
【現在】



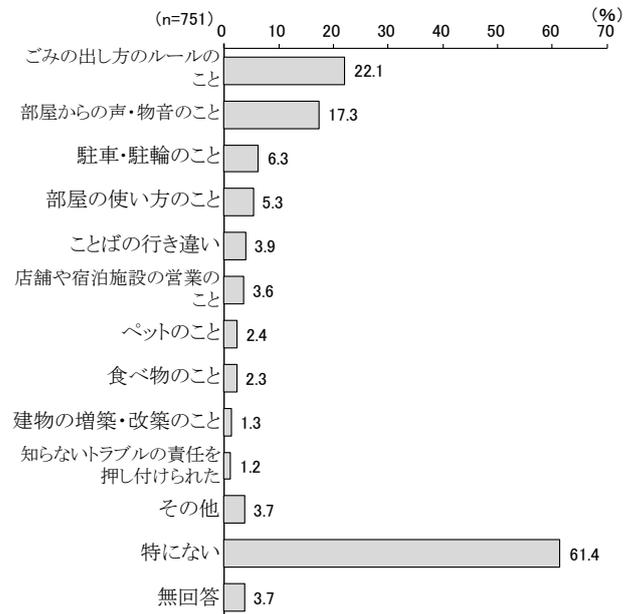
【今後】



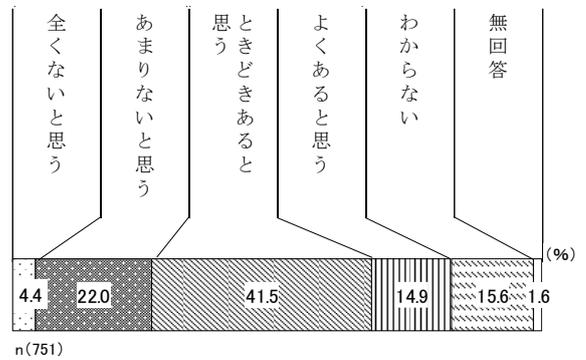
問：あなた自身が、同じ地域で外国人と生活していく上で大切なことは何だと思えますか。（複数回答）



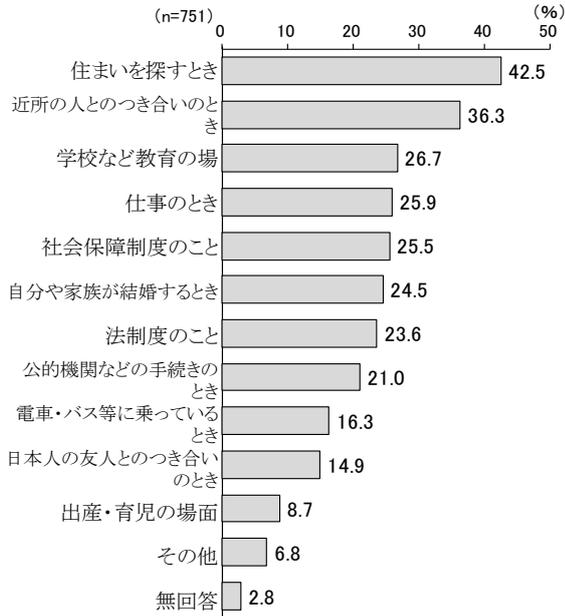
問：あなたは今までに、外国人と関連して、近所で次のようなトラブルの経験がありますか。（複数回答）



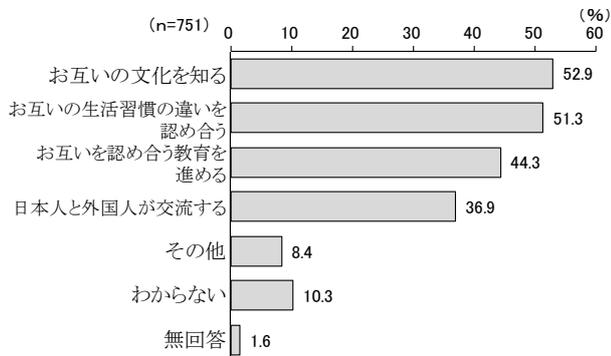
問：あなたは、日本人から外国人に対する偏見や差別があると思いますか。



問：偏見・差別はどのような場合にあると思いますか。（複数回答）

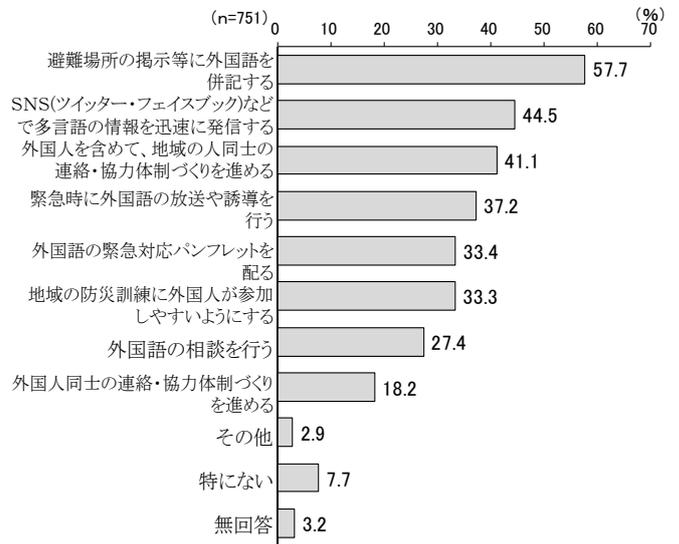


問：偏見・差別をなくすためには、何が必要だと思いますか。（複数回答）



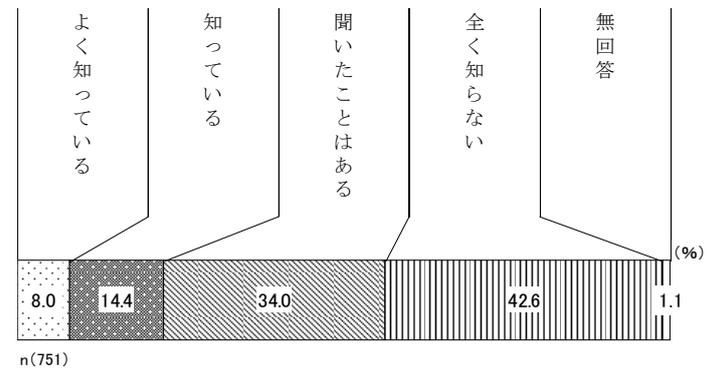
（２）災害時・緊急時の協力

問：あなたは、新宿区に対して、どのような（外国人を含めた）災害対策を望みますか。（複数回答）

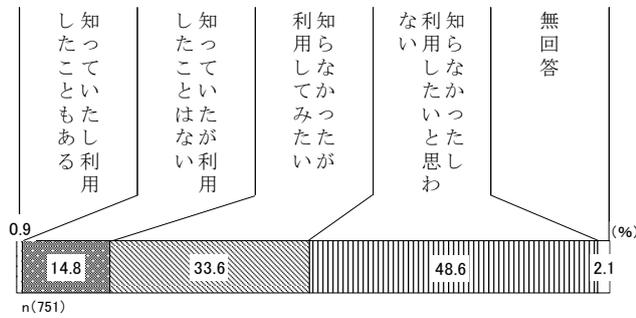


（３）多文化共生のまちづくり

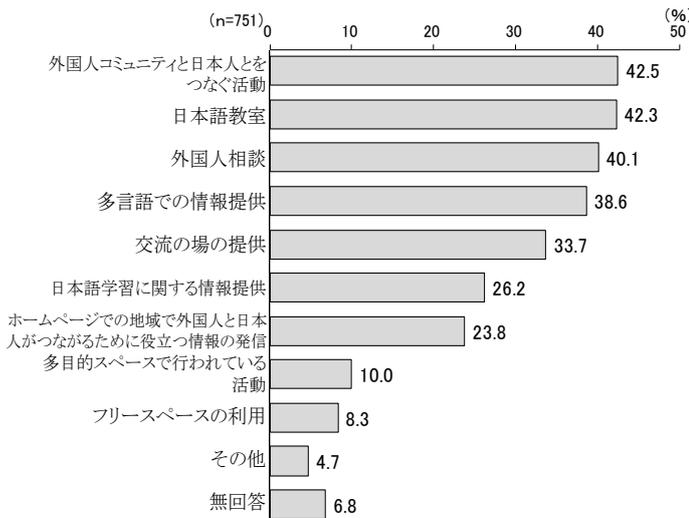
問：『多文化共生社会』という言葉があります。この言葉は、「国籍や民族などの異なる人々が互いの文化的違いを認め、理解し、地域で共に生きていく社会」を言います。あなたは、この言葉を見たり聞いたりしたことがありますか。



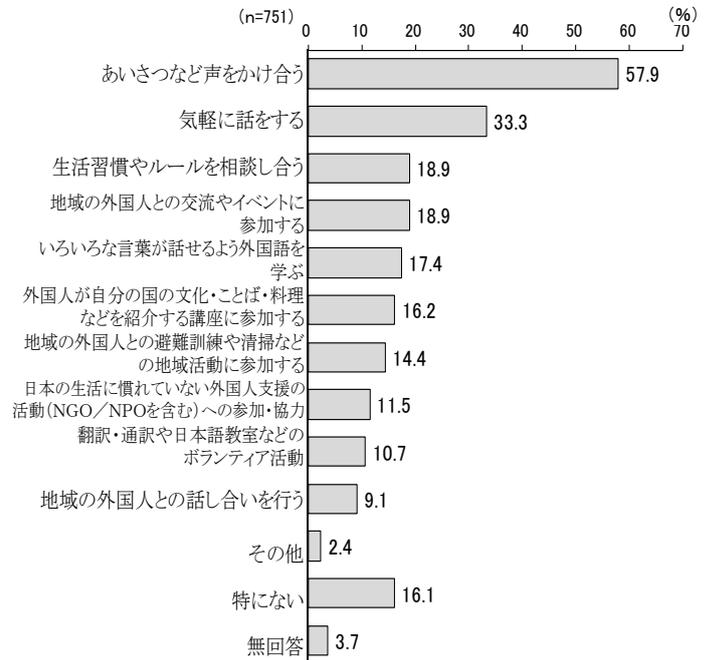
問：新宿区では、日本人と外国人の交流施設「しんじゅく多文化共生プラザ」を設置して、日本語学習、資料・情報の提供、交流会や講座等を行っています。あなたは、この施設を知っていましたか。



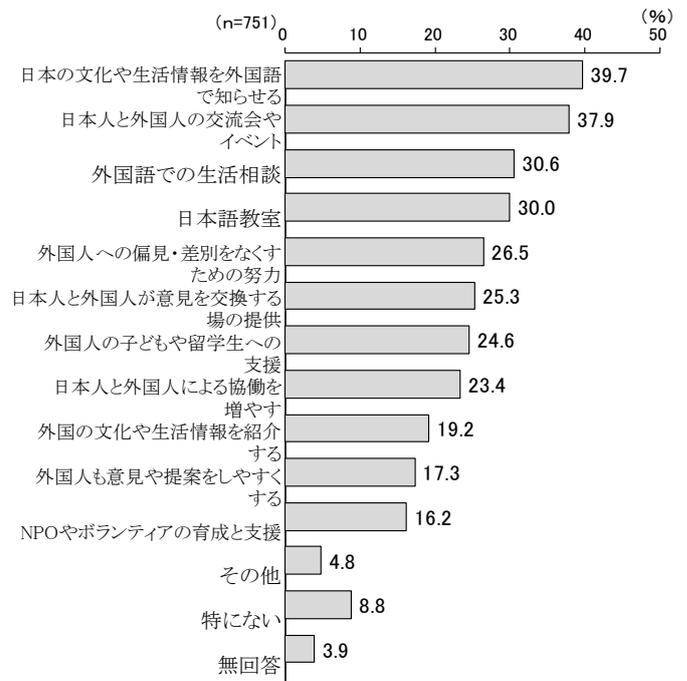
問：しんじゅく多文化共生プラザの機能で特に大事だと思うものはなんですか。（複数回答）



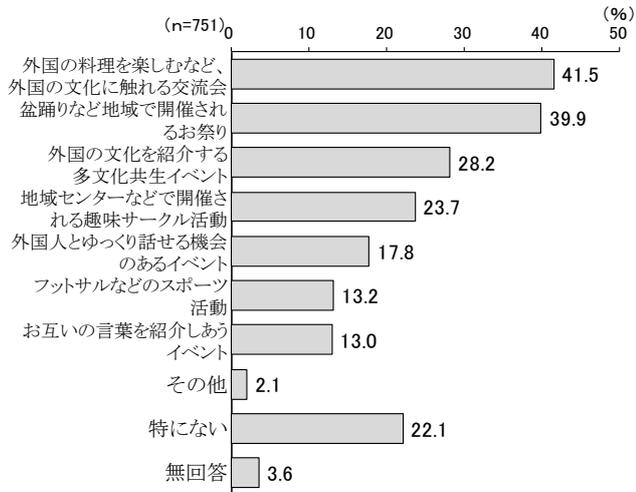
問：「多文化共生のまちづくり」を進めるために、あなたは何かができるとお思いますか。（複数回答）



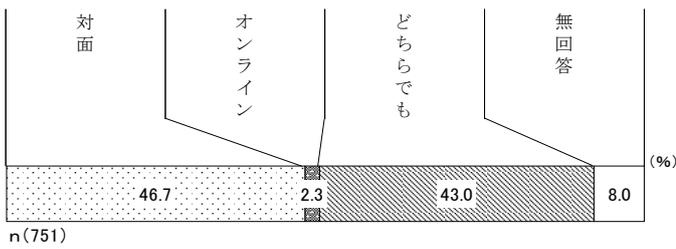
問：「多文化共生のまちづくり」を進めるために、今後の区への対応として、どのようなことを入力をべきだと思いますか。（複数回答）



問：参加したいと思える交流会・イベントはどのようなものですか。（複数回答）



問：どのような交流方法がいいですか。



令和5年度
新宿区多文化共生実態調査
概要版

印刷物作成番号

2023-20-2614

令和6年1月発行

調査主体 新宿区
調査委託 (株)文化科学研究所
発行 新宿区 地域振興部 多文化共生推進課
〒160-8484 東京都新宿区歌舞伎町一丁目4番1号
電話 03(5273)3504

●この冊子は、地球環境保全推進のため、再生紙を使用しています。